

中国肢体障害者リハビリテーション
研究センタープロジェクト
計画打合せ調査団報告書

昭和63年1月

国際協力事業団
医療協力部



医 協
J. R.
88 - 27

マイクロ
フィルム作成

国際協力事業団
17988

JICA LIBRARY



1067284[8]

17988

はじめに

昭和61年11月25日から5ヶ年間の計画で開始された本プロジェクトも1年を経過し、リハビリテーション医学、理学療法、作業療法に係る研修会開催、研修員の受け入れ、機材の供与により、中国肢体障害者リハビリテーション研究センターの要員養成のための協力が行なわれている。

国際協力事業団は、実施協議調査により策定された本プロジェクトの暫定実施計画に基づく具体的協力計画作成のため、昭和62年12月津山直一国立身体障害者リハビリテーションセンター総長を団長とする計画打合せ調査団を派遣した。

本報告書は調査団の調査結果をとりまとめたものである。ここに調査団員各位、並びに調査団派遣にご尽力いただいた関係者各位に深甚なる謝意を表する次第である。

昭和63年1月

国際協力事業団

理事 末永昌介

目 次

1. 調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯・目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 日 程	1
1-4 主要面接者	2
2. 協議内容	4
3. 総 括	8
4. 暫定実施計画の進捗状況〔I〕	9
4-1 建物施設等	9
4-2 実施運営上の問題点	10
5. 暫定実施計画の進捗状況〔II〕	11
5-1 協力部門別活動	11
5-2 資機材供与及び利用状況	13
6. 会議議事録	15
7. 協力実績	43
7-1 専門家派遣実績	43
7-2 研修員受入れ実績	45
7-3 機材供与実績	46

1. 調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯・目的

障害者の治療及び社会復帰を目標とした近代的・総合的リハビリテーション実施のため、肢体障害者リハビリテーション研究センターが日本の無償資金協力により建設されることとなった。これに伴い中国政府は、センターの円滑な運営に必要な要員の養成のため、日本政府にたいしプロジェクト技術協力を要請し、1986年11月25日討議議事録(R/D)署名により協力が開始された。1987年2月よりリハビリテーション医師に対する研修会が、また9月から理学療法士・作業療法士に対する研修会が実施され約60名の専門家が派遣された。研修員受け入れについては61年度に医師5名、62年度に看護婦5名を受け入れ、機材については61年度に約2千万円、62年度に約6千万円の機材供与を実施した。

プロジェクト協力開始より1年を経過し、技術協力も軌道に乗りつつあり、また研究センターの開所を1988年秋に控えていることから、当初の暫定実施計画に基づく今後の具体的協力計画について中国側と協議するため、1987年12月7日より12月12日まで計画打合せ調査団を派遣した。

1-2 調査団の構成

団長	津山直一	国立身体障害者リハビリテーションセンター総長
団員	西宮能義	厚生省社会局厚生課国立施設管理室長
団員	二瓶隆一	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院長
団員	飯塚敏幸	厚生省大臣官房国際課国際機関係長
団員	戸川正人	国際協力事業団研修事業部研修2課

1-3 日程

月日(曜日)	時間	調査内容
12月7日(月)	10:15	東京発(全日空901)
	13:45	北京着
	15:40	JICA中国事務所表敬・打合せ
	20:00	日本人関係者打合せ(京倫飯店2F会議室)
12月8日(火)	8:50	センター建設現場視察及び中国側関係者と協議
	13:50	中国残疾人福利基金会表敬・打合せ
	15:00	中日友好病院リハビリテーション科、衛生学校視察
	18:00	中国側主催招宴(和平門全衆徳)
	20:00	日本人関係者打合せ(京倫飯店2F会議室)

12月9日(水)	9:15	センターにて中国側関係者と協議
	14:00	中日友好病院内日本人事務室にて議事録(案)作成
	18:00	中日友好病院リハビリテーション科, 衛生学校関係者と夕食 (四川飯店)
	20:30	京倫飯店にて議事録(案)作成
12月10日(木)	8:40	京倫飯店にて議事録(案)検討
	12:40	京倫飯店にて議事録(案)修正
	14:30	議事録(案)を中国側に提出, 翻訳・内容検討を依頼
	18:00	日本側答礼宴(北京四川豆花飯店)
	21:00	議事録(案)の中文チェック
12月11日(金)	9:30	在中国日本国大使館表敬・報告
	10:40	JICA中国事務所にて議事録調印
	11:40	JICA中国事務所長主催昼食会(ホリデーイン)
	14:00	津山団長, 西宮団員, 二瓶団員帰国(全日空782)
	15:00	中日友好病院視察(以下飯塚団員, 戸川団員のみ)
	16:00	中日友好病院プロジェクト帰国研修員表敬
	12月12日(土)	15:10

1-4 主要面接者

(1) 中国残疾人福利基金会

林 用三 秘書長
張 世昌 国際部

(2) 中国肢体障害者リハビリテーション研究センター

劉 京 所長
繆 鴻石 副所長
吳 弦光 副所長
喬 志恒 リハビリテーション部主任
李 全珠 科教所長
超 春正 医師
吳 金灼 医師
趙 輝三 医師
王 炳腸 医師
於 文江 医師
陣 立喜 医師

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| 張 鉄志 | 外事所員 |
| (3) 中日友好病院 | |
| 劉 曉勤 | 衛生学校長 |
| 馮 秀敏 | 衛生学校医師 |
| 蔣 立才 | リハビリテーション部主任 |
| 秦 次青 | リハビリテーション部医師 |
| 郭 当 | リハビリテーション部医師 |
| 曾 究 法 | 外事所副所長 |
| (4) 中国科学技術委員会 | |
| 張 惠春 | 科学技術合作局官員 |
| (5) 在中国日本大使館 | |
| 畠中 篤 | 公使 |
| 大久保寿夫 | 一等書記官 |
| (6) J I C A 関係者 | |
| 田中 定則 | 中国事務所長 |
| 桑島 京子 | 中国事務所員 |
| 鳥居 有人 | 中日友好病院プロジェクトリーダー |
| 加藤 洋子 | 中国肢体障害者リハビリテーション研究センタープロジェクト調整員 |
| 加藤 幸男 | 中国肢体障害者リハビリテーション研究センタープロジェクト専門家 |
| 山口 昇 | 中国肢体障害者リハビリテーション研究センタープロジェクト専門家 |
| 古川 良三 | 中国肢体障害者リハビリテーション研究センタープロジェクト専門家 |
| 岩崎 洋 | 中国肢体障害者リハビリテーション研究センタープロジェクト専門家 |
| 渡辺 京子 | 中国肢体障害者リハビリテーション研究センタープロジェクト専門家 |
| (7) その他 | |
| 中西 重裕 | 伊藤喜三郎建築研究所駐在員 |

2. 協議内容

飯塚 敏 幸

12月7日(月)

午後北京入りし、明日からの中国側との交渉に備えるため、まずJICA中国事務所内において、事務所側から本プロジェクトの現状説明を受けた。さらにホテル内において、本プロ技協で派遣されたOT・PTを交えての事前打合せを行った。OT・PT側から本プロジェクトの進捗状況、問題点、今後の臨床実習のスケジュール案について説明があり、これらを踏まえ、明日からの交渉に臨む日本側の態度確認を行った。その概要は次のとおりである。

- (1) 中国肢体障害者リハビリテーション研究センター(以下「リハセンター」という)の完成時期及び患者の入所開始時期は何時か、中国側から確認を取る。
- (2) 現在行なわれているOT・PT研修は2月までの半年とし、後期の半年は、リハセンター完成後、患者が入所されてから実施した方が効率的だと思うが、中国側はどう考えるか聴取し、調整すること。
- (3) 前期のOT・PT研修終了後、後期の研修が開始されるまでの間の知識の維持向上対策について、日本側から何点か提示し、中国側に回答を出させるようにすること。
- (4) 専門家の宿舎について、リハセンター内及び近くのホテルに確保するよう中国側へ要請すること。
- (5) 先に、JICA中国事務所に対し、本年11月よりリハセンターの名称を変更した旨中国側から連絡があったが、その真意を確認すること。

12月8日(火)

- (1) リハセンター事務所で中国側と打合せ
 - ア) 中国側(劉京 リハセンター主任)から、次のような現状説明があった。
 - ㊦) 建物の外装はほぼ終わり、内部も30%近く終了した。全体として約70%の工事が済んだところである。
 - ㊧) 来年4月までに設備の据え付けに必要な建物の内装が完了する予定である。
 - ㊨) 来年9月までに全ての工事を終了し、10月初めに開院する予定である。
 - イ) 日本側より、OT・PTの後期研修は実習を行うことが目的であることから、患者の入所開始時期は何時か。また、実習できる場所は確保されているか質問したところ、中国側より、来年8月中旬より患者を第一分院からリハセンターへ移送し治療を開始する予定であり、そのため実習場所の確保をはじめ、全力を尽くしている旨回答があった。

(センター建設現場視察後、会議続行)
 - ウ) 前記1の(2)及び(3)に関し、中国側より、後期研修は来年6月から半年間お願いしたい旨発

言があり、また、それまでの間の対策について中国側より次のような説明があった。

(ア) 設備の取り付けや、学生間実習を行いたい。

(イ) 8月以降は第一分院の患者を移送させ、試験治療を行いたい。

(ウ) 日本語の教育を行いたい。

(エ) 日本のOT・PT関係問題をやらせたい。

(オ) 6月までにリハセンター内に研修用の施設が確保されるようにする。

エ) また、中国側より、OT・PTの後期研修の実施方法について、始めは一緒に行い、後半で分けて行うことについて、日本側に意見を求めてきたため、中国の実状から判断し、中国側で結論を出すべきである旨回答した。

オ) リハセンターの名称変更(中国肢体傷残康復研究中心→中国康復研究中心)について中国側に真意を尋ねたところ、まず英文(China Rehabilitation Research Center)に変更は生じないこと、英文の意味には肢体障害の意味が含まれていないこと、また、あくまで主体は肢体障害者であることには変わりがないが、将来にわたって不変であるとはいえないこと、肢体に限定せず障害者を広くカバーできるようにした、との説明があった。

カ) 日本側から、リハセンターの役割として、治療のみを行うのではなく、将来的にはリハビリの専門家を育てる教育センターとしての機能を持たせるよう希望する旨発言した。これに対し、中国側も賛同し、その実現に向け努力する旨回答があった。

キ) また、中国側から、昨日発表された障害者の実態調査結果について紹介があった。それによると、障害者数は中国全土で約5,164万人。ただしこの中には精薄者や精神病者も含むとのこと。

(2) 中国残疾人福利基金会(林用三 副秘書長)表敬訪問

日本側より、リハセンターの建設が順調に進んでいることが確認でき安堵したこと、OT・PT研修を今後も進めていきたいこと、細部については明日も引続きリハセンター事務所において協議する旨説明した。これに対し、林副秘書長から、日本の協力に対し感謝の意が表明された。

また、日本側より、将来的にはリハセンターをリハビリの専門家を養成する教育機関とするよう、またセンターの完成時期に遅れが生じないよう要請し、林副秘書長も同意した。

(3) その後、中日友好病院を表敬訪問し、本プロ技協への協力に対し、感謝の意を表明した。

(4) 夕食後宿舎において、明日の会議に臨む日本側の態度確認のため、昨日同様の内部打合せを行った。その結果は次のとおりである。

ア) OT・PTの後期研修時期について、中国側より来年6月から半年間実施したい旨発言があったが、これには実習が不可欠であり、来年9月から6か月間行うことが最適である。実習方法は2班に分け、1人についてOT・PTを各々3か月ずつ行う方が効率的である。実習開始前2か月を講義に充てることとする。

1) また、後期研修が始まるまでの間のあり方については、①宿題を出す、②施設見学を行う、

③語学研修を行う，④スライドやビデオを使って学習する，⑤学生間実習を行う等，日本側から提案し，中国側に回答を出させることとする。

ウ) 今後の看護婦や医師に対する研修については，OT・PTの後期研修実施後に検討することとする。(この件に関しては，翌日，中国側から具体的に提案があったので，後述のとおり了承した)

エ) 専門家の宿舎について，リハセンター内はもちろん，近くのホテルも確保するよう要請する。

オ) 再来年度の機材供与については，既存の機材をセットし，かつ，リハセンター開院後に専門家を派遣し，その時点で必要となった機材を供与することとする。

12月9日(水)

(1) 午前中，リハセンター事務所で中国側と打合せ

ア) 冒頭，リハセンターの建築コンサルタントである伊藤喜三郎建築研究所の中西氏から，建築工程表の説明があり，労働者数等現状に大きな変化がない限り来年9月に完成できるとのこと。

イ) 次に中国側(代表：繆鴻石 リハセンター副主任)から，リハセンターの組織について説明があった。職員は約700名，うち管理部門の職員は約30%となるとのこと。

ウ) また，中国側から近く中国障害者連合会が新たに組織され，中国残疾人福利基金会はその下部組織という形で存続することになる旨説明があった。

エ) 日本側から，OT・PTの後期研修について，来年7月から8か月間行う提案をした。これは，7月から2か月間講義研修を行い，9月から6か月間実習を行うことを内容とするものである旨説明した。

これに対し，中国側は同意した。

オ) OT・PT後期研修が始まるまでの間の計画については，前期研修が終わる来年2月までに，双方協議のうえ決定することで合意した。

また，後期の実習方法については，日本側の提案どおり合意された。

カ) 中国側より，看護婦の研修については1989年4月から3か月間，第2回医師研修については1989年7月から6か月間お願いしたい旨発言があり，日本側は了承した。また，中国側より，開院後できるだけ早く専門家チームを派遣して欲しい旨要請があり，今後双方で協議することとなった。

キ) 中国側より，専門家の宿舎について日本側の意向に添うべく最大限努力する旨表明された。

ク) また，来年度日本へ派遣する5名の研修員については全員医師を考えている旨発言があった。具体的な氏名は未定とのこと。

これに対し日本側より，要請書を早期に提出するとともに，研修希望事項を明確にするよ

う申し入れた。

再来年度については、リハセンター開院後に検討することとなった。

ク) 日本側より、今年度の機材については中国側のほぼ要望通り供与できる予定である旨発言した。また、来年度機材について中国側より要望があった。

コ) リハセンターの将来構想について、日本側は教育機関として今後成り立っていくことが肝要である旨重ねて要望した。

カ) 最後に中国側より、リハセンターの管理部門に不安を感じているため、日本から専門家を派遣してほしい旨、またリハセンターの管理責任者を研修員として受け入れてほしい旨要請があり、これらに対し日本側は、この問題を持ち帰り、関係者と協議する旨表明した。

(2) 午後、議事録の作成作業を行った。

12月10日(木)

午前中は昨日に引き続き、議事録作成作業が行われ、午後、中国側へ手交した。

その後双方で突き合わせを行い、細部の修文が行われた。このため、本日予定されていた議事録へのサインは、明日に延期された。

12月11日(金)

日本大使館を表敬訪問し、畠中公使に対し今回の計画打合せの結果を報告した。その後JICA事務所にて、議事録への署名が行われ、本調査団の全日程を終了した。

3. 総 括

津 山 直 一

昭和62年12月7日計画打合せ調査団長として団員西宮、二瓶、飯塚、戸川とANA 901により10:15発13:40北京着JICA北京事務局田口所長と会談、京倫飯店に泊。

12月8日10:00中国リハビリテーション研究センターに於て劉京所長、繆鴻石副所長と会談、研究センター建築現場視察、建築の進捗状況順調、昭和63年10月開院の可能性は確実なることを認め、今後のPT、OT研修の実施、同研修後期開催に会する件、第2次医師研修会実施、リハビリナース研修会の実施、等につき討議。午後中国残疾人福利基金会訪問、林用三秘書長と会談、今後の計画につき討議。その後中日友好医院リハビリ部に於てPT、OT研修会実習実施状況を視察、附属衛生技士学校を視察。

12月9日10:00中国リハビリテーション研究センターに於て繆鴻石副所長と前日に引き継いで研修計画に関し討議、研修員受入れに関し討議。

12月10日議事録内容打合せ

12月11日9:30日本大使館に島中公使訪問、現状報告と討議。次でJICA北京事務局に於て副所長、津山団長の間で議事録署名交換。

JAL780により14:00北京発20:20成田着

今回の調査の成果として

1. 研究センター建築進捗状況を確認
2. 同センター開院のための準備状況確認
3. PT、OT研修に関する教育資機材搬入に関する討議
4. PT、OT研修後期分開催に関する討議、医師、ナース研修会実施、専門家派遣に関する討議
5. 研修員の受入れに関する件討議

を実施一応の結論に達した。

今後調査を実施する上での問題点としては開院期日の確認、教育用資機材の搬入の順調化、ならびに本リハビリテーション研究センターが単なる治療、研究センターにとどまらず、中国全国にリハビリテーション専門家を養成、送り出しうる教育機関としての責務を果しうるよう考慮すること、可能な限り研修センターとしての機能を持ちうるよう計ることの重要性を緊急事項として認めた。

4. 暫定実施計画の進捗状況〔I〕

西 宮 能 義

4-1 建物施設等

(1) 建物

ア) 暫定計画に比し、外装工事、内装工事共約1か月の遅れをみたが、これは、農繁期による労働力不足、東芝ココム事件の影響等によるもので、その後、施工関係者間で設計変更を含めスピードアップのための協議を重ね、改善を図っている。

イ) この結果、現在、労働者も1,000人程度を投入しているが、当初工程表の概ね67%が完了している。改めて提出された施工計画によれば、1988年6月までに全てを完了し、7月は試運転の期間とし、8月15日には第一分院から患者を受け入れ、10月開所の予定である。

ウ) 部門別の進捗状況は、センターの中核となる病棟、外来棟、リハビリ工学、科学研究棟は外装工事を一部残す程度となっているが、講堂が遅れており、1988年3月まで外装工事がかかり、4月から6月までに内装工事を完了する予定である。

(2) 設備

医療設備の据付作業は、1988年4月から6月にかけて実施する予定となっているが、そのため、設備据付けを必要とする病棟、外来棟、研究棟等の内装工事は3月までに完了させる。

〔注〕 1988年10月開所予定の確実性については、①建築のスピード、②機材供給状況、③医療機材到着状況等が予定どおり進行することが前提であるが、中国側も萬里副総理が視察を行うなど、本センターの建設を重点事業と認識しているので順調に運ぶものと期待できる。

(3) 開所前の準備状況

ア) 組織等

職員総数は700人で概ね決定している。管理部及び業務部の機構図の提示があった。管理部は総数の約30%程度の職員を当てる予定となっている。また、700人は全国から採用するものである。

イ) 経費

近く、中国国务院の批准を得て中国障害者連合会が組織される予定であり、中国残疾人福利基金会はその下部組織となる。したがって運営費は、国家予算及び福利基金会で賄うこととなるが、負担区分等は未定である。

4-2 実施運営上の問題点

- (1) 1988年10月に開所することは、日中双方が確認したことであるが、先にも述べたとおり、前提となる日本からの医療機材等の供与が予定どおり実施される必要がある。
- (2) 職員は、現在全国に従事している医師、看護婦、その他のスタッフから構成される予定となっているため、リハビリテーションに対する技術的方法論に差異が予想される。したがって、各部門が適正に機能する上で各部門間の連携を確立するための調整が必要と考えられる。
- (3) センターの機能が十分に発揮されるためには、管理運営の適否が重要なポイントである。しかしながら、センター副主任呉弦光氏の説明によれば、予定されている職員の中には管理運営面での経験者が乏しく、懸念している様子。したがって、管理責任者に対する指導が必要と考えられる。

[注] 中国側から管理部門の専門家の派遣、さらに可能であれば管理責任者を1～3か月程度日本で研修させたいので受け入れてほしい旨の要請があり、日本側は持ち帰り関係者と協議することを表明した。

5. 暫定実施計画の進捗状況〔Ⅱ〕

二 瓶 隆 一

5-1 協力部門別活動

a) OT・PT前期研修

i) 活動状況

87年9月1日より開始された6ヶ月の前期研修は、若干の問題点以外、順調に行われており、特に大きく変更する必要はない。医師研修会の際、問題となった通訳、教科書、実習時間の少ないこと、講義の重複などは、今回は中国側からも提出されていない。これは次の点が要因で順調な経過を取っていると考えられる。

- ① 中国側の研修生がレベル、年齢がほぼ一定の学生であること
- ② 前回の医師研修会結果を踏まえての日本側講師の周到な準備
- ③ 日本側講師が2～6ヶ月長期間滞在していること
- ④ 調整員夫妻が滞在して、中国リハ研究センター、友好病院、学院、派遣講師団、JICAとの間の良好な調整を行っていること

ii) 問題点

① 教育用機材の未到着

1. 62年度の教育用機材が殆ど未到着のため、講師団からの不満が強く、教育に不自由している。
2. 中日友好病院での実習期間中に機材到着が間に合わぬ危険があること。

② 業務費の不足

1. 機材の代用品を現地で購入する
2. 事務室借用費用

これらの問題点はできるだけ速やかに解決する必要がある。

b) PT・OT後期研修

i リハ研究センターの業務開始の遅延に伴い、当初の6月開始、研修期間6ヶ月を、予定を変更、1988年7月1日より1989年2月28日の8ヶ月とした。これは

- ① 日本側が実習に少なくとも6ヶ月間が必要であることを強調したこと
- ② 研修期間と後期の間隔が長期に及ぶと学生の知識の維持が困難となること

以上の理由から研修期間を当初の6ヶ月から8ヶ月に変更を申し入れ、合意をえた結果である。

ii) 場 所

リハ研究センター（講義、実習とも）

iii) 対 象

原則的には前期の終了生を対象とする。総員を50名以下とする。

IV 方法

- ① 88年7月より2ヶ月間は講義，学生間実習を主として行う。同年9月より6ヶ月の実習とする。
- ② 9月以降は学生を2班に分け，PT，OTをそれぞれ3ヶ月ずつ同時並行的に実施する。
- ③ 研修前後期の中間期は4ヶ月あるが，最初の1ヶ月間は労働の義務があり，後の3ヶ月間はセンター開設の労働を行うが，この期間の学生の知識維持が，後期研修のためにも必要であり，次の種々の方法が考慮されている。

1. 補習授業
2. 問題集施行
3. 試験
4. テレビ，スライドによる補習授業
5. 日本語学習
6. 中日英語の専門用語の学習

このなかで可能なものを，OT加藤氏，中国側通訳者による実施を予定し，4月より3ヶ月間，週1～3回程度を考えているが，前期研修終了までに双方協議のうえ決定することとした。

c) 看護研修

i 期間

リハ研究センター業務開始の遅延および，研修事務職員や通訳がPT，OT研修終了後，整理や看護研修のための準備期間が必要ということで，当初の予定より一月繰り下げて，1989年4月より3ヶ月間とした。

ii 場所

リハ研究センター

iii 対象

原則として中日友好病院衛生技術学校委託看護学卒業生を対象とし，学生数は60名を限度とする。

d) 第2回医師研修

i 期間

1989年7月開始予定である。研修期間は6ヶ月間の予定。これは第1回医師研修が同期間で中国衛生部の公式認可を受けたことを配慮してのことである。

ii 場所

リハ研究センター

iii 対象

医科大学卒業後の医師50名を対象する。

医師研修に関しては，開院が確実な時期に双方で協議のうえ決定する。

e) リハビリテーション医療指導チームの派遣

中国側より脊髄損傷，片麻痺，脳性麻痺，などの分野のリハビリテーション医療指導チームを研究センター開院後なるべく早期に派遣してもらいたい旨，要請があった。

具体的な派遣時期，人数，職種については，開院が確実な時期に双方で協議のうえ決定する。

5-2 資機材供与及び利用状況

a) 設備・資材

1988年までに設備の据え付けに必要な建物の内装が完了する予定。

日本からの資材は同年2月までに搬入完了の予定。

b) 供与機材

① 1987年度供与機材

殆どまだ中国側に到着していない。

特に，教育用の機材が未到着で，日本側講師団より強い不満が表明された。

また中日友好病院での供与機材が活用される機会が殆ど失われた。

分院での供与機材の活用期間は極めて短縮された。

② 1988年度供与機材

1986年に要請されたもので，正式要請書を速やかに提出させることとした。

③ 1989年度供与機材

供与機材が有効に活用されるために，リハ研究センター開院後，状況を明確に把握して，可及的速やかに中国側より要請を提出させ，双方協議のうえ決定する。

c) 教育用機材の紛失

医師研修時期に友好病院に搬入した講師講義用の参考書，ビデオ，スライド（別添）が紛失している。この期間は調査員不在のため管理不十分によるが，現在の講師団が非常に不自由を感じている。早急に補填を要する。

不明ビデオ、スライドリスト

1987. 9. 5 現在

番号	書名	出版社	数量	備考
1	作業療法の基礎		1	スライド
2	運動療法の基礎		1	"
3	リハビリテーション診断学		1	"
4	社会リハビリテーション		1	"
5	上肢の運動学		1	"
6	電気診断学		1	"
7	脊髄損傷の理学療法		1	"
8	車椅子のすべて		1	"
9	Brachial Plexus Injuries of Root Avulsion Type		1	ビデオ
10	理学療法		1	"
10	作業療法		1	"
12	手足の不自由な子どものキャンプ		1	"
13	理学療法の基礎		1	"

不明図書リスト

1987. 9. 5 現在

番号	書名	出版社	数量	備考
1	Atlas of Anatomy	医学書院	1	
2	脊髄損傷ハンドブック	技報堂出版	1	
3	リハビリテーション白書	医 菌 薬	1	
4	日 中 辞 典		1	
5	徒手筋力検査法	協 同 医 書	1	
6	リハビリテーション基礎医学	医 学 書 院	1	
7	神経因性膀胱の診断と治療	"	1	

6. 会議議事録

中国肢体障害者リハビリテーション研究センター プロジェクト技術協力に係る日中双方の会議議事録

国際協力事業団が組織し、国立身体障害者リハビリテーションセンター総長津山直一博士を団長とする日本側計画打合せ調査団は、「中国肢体障害者リハビリテーション研究センタープロジェクトのための技術協力に関する討議議事録」の具体的内容についての調整と今後の実施計画の打合せを行うために、1987年12月7日より12月11日までの日程をもって中華人民共和国を訪問した。

調査団は中国肢体障害者リハビリテーション研究センター劉京主任他中国側関係者と、今後の技術協力を効果的に実施するため、研究センターの要員教育訓練、専門家の派遣、研修員の受け入れ、研究センター開所後の協力のあり方等について一連の協議を行った。

双方の協議内容の要点を下記に記録する。

1. プロジェクトの進捗状況

(1) 中国肢体障害者リハビリテーション研究センター施設建設進捗状況

建物については、現在のところ当初の工程表(別添1)通り67%終了しており、1988年9月までに完成の予定である。

(2) 開院のための準備状況

① スタッフ

研究センターのスタッフは、組織図(別添2)の通り、ほぼ決定している。職員は約700名を予定しており、そのうち管理部門(別添3)の職員は30%程度となる。

② 設備・資材

1988年4月までに設備の据え付けに必要な建物の内装が完了す

る。また、日本からの資材は1988年2月までに搬入が終了する。

③ 予算措置

中国国务院の批准を得て、中国障害者連合会が新たに組織される予定であり、今後中国残疾人福利基金会はその下部組織という形で存続することになる。したがって、研究センターの予算は国家予算及び中国残疾人福利基金会より捻出される予定である。

④ 開院

開院は1988年10月を予定している。但し、1988年8月中旬より第一分院から患者を研究センターに移送し、治療を開始する。

2. 具体的技術協力内容

(1) 1987年度後期計画見直し

現在のところ順調にいており、変更の必要性はない。

(2) 1988年度要員教育訓練計画

① O T ・ P T 後期研修

期間： 当初の予定を変更し、1988年7月1日から1989年2月28日までの8か月間とする。

場所： 研究センター（講義、実習）

対象： 原則的には前期の修了生を対象とするが、中国側の要請に基づき、全体が50名を越えない範囲で学生数を増やすことができる。

方法： 1988年7月1日から同年8月31日までは講義を主とし9月1日以降は実習を主とする。9月以降の実習は、学生を2班に分け、O T ・ P T をそれぞれ3か月ずつ同時並

行的に実施する。

その他： 後期研修会の開始まで、前期修了生に対し知識の維持向上を目的としてなんらかの方策を講ずる。具体的な方策については、双方協議のうえ可及的速やかに決定する。

② 看護研修

期間： 当初の予定より1か月繰り下げ、1989年4月から3か月間とする。

場所： 研究センター（講義、実習）

対象： 原則として中日友好病院衛生技術学校委託看護学生を対象とし、学生数は60名を限度とする。

③ 第二回医師研修

期間： 全体期間を6か月とし、1989年7月より開始する。

場所： 研究センター（講義、実習）

対象： 医科大学卒業後の医師50名を対象とする。

④ リハビリテーション医療指導チームの派遣

中国側より脊髄損傷、片マヒ、脳性マヒ等の分野のリハビリテーション医療指導チームを研究センター開院後なるべく早期に派遣して欲しい旨、要請があった。尚、具体的な派遣時期、人数等については、今後双方で協議のうえ決定する。

(3) 専門家の派遣

① 派遣期間、人数等

日本人専門家の派遣の期間、人数等については、研修会のカリキュラム作成後双方において協議し可及的速やかに決定する。

尚、要請書（A₁フォーム）は早期に日本側に提出する。

② 専門家の宿舎

研究センターにおける指導開始後、日本人専門家の宿舎として中国側より研究センター職員宿舎を用意する旨、表明があった。さらに、日本側はホテルの宿泊についても検討するよう要請したところ、中国側はこれについては、日本側の意向に添うべく最大限努力する旨、表明した。

(4) 研修員の受け入れ

1988年度について、中国側は①泌尿器科、②職業リハビリテーション、③小児整形外科、④電気生理、⑤電子顕微鏡・病理の各分野の医師その他専門家5名を予定しており、期間は1988年4月以降から1年間を希望している。要請書(A₂A₃フォーム)は早期に提出し、研修希望事項は明確にする。

1989年度については、研究センター開院後検討する。

(5) 機材の供与

中国側は、1988年度機材について別添の通り要請越した。

1989年度機材については、研究センター開院後、可及的速やかに中国側より要請し、双方協議のうえ決定する。

要請書(A₄フォーム)は早期に提出する。

3. 中国肢体障害者リハビリテーション研究センター開院後の技術協力について

開院後のセンターの役割として、治療を行うのみならず、全国範囲のリハビリテーション専門家教育機関となるべきであり、その実現に向けて双方努力するという点において、意見の一致をみた。今後の技術協力においても、研究センターが中国人による中国語での専門教育が行えるようにな

ることを目標として、教育訓練を実施する。

また、中国側は、研究センター各部門の運営を効率的にはかり、全体の水準を引き上げるべく、管理部門の専門家を派遣して欲しい旨、要請越した。さらに可能であれば、管理責任者を1～3か月の期間で、研修員として受け入れて欲しい旨、併せて要請越した。これに対し、日本側はこの問題を持ち帰り、関係者と協議する旨、表明した。

4. 研究センター名称変更について

中国側より、現在の中文名「中国肢体傷残康復研究中心」を、英文名「CHINA REHABILITATION RESEARCH CENTER (CRRC)」と一致させること、及びさらに包括的なリハビリテーション研究を目指すため「中国康復研究中心」と名称を改める旨、説明があった。

於：北京

1987年12月11日

津山直一

津山 直一

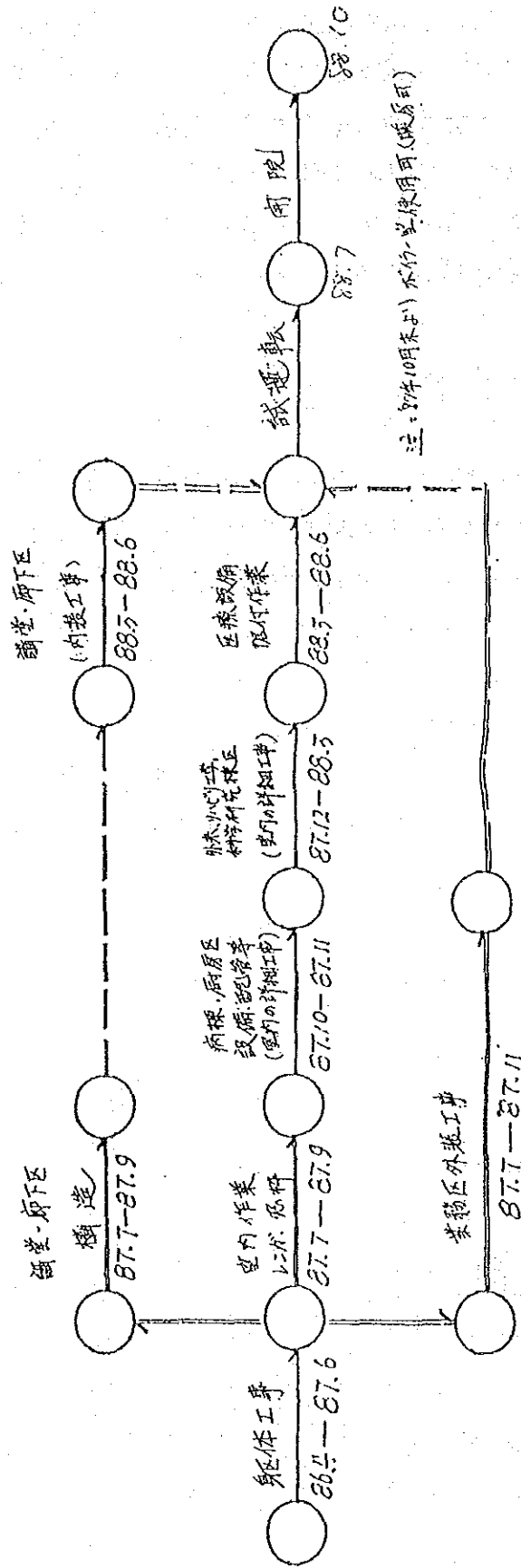
計画打合せ調査団団長
日本国国際協力事業団

繆鴻石

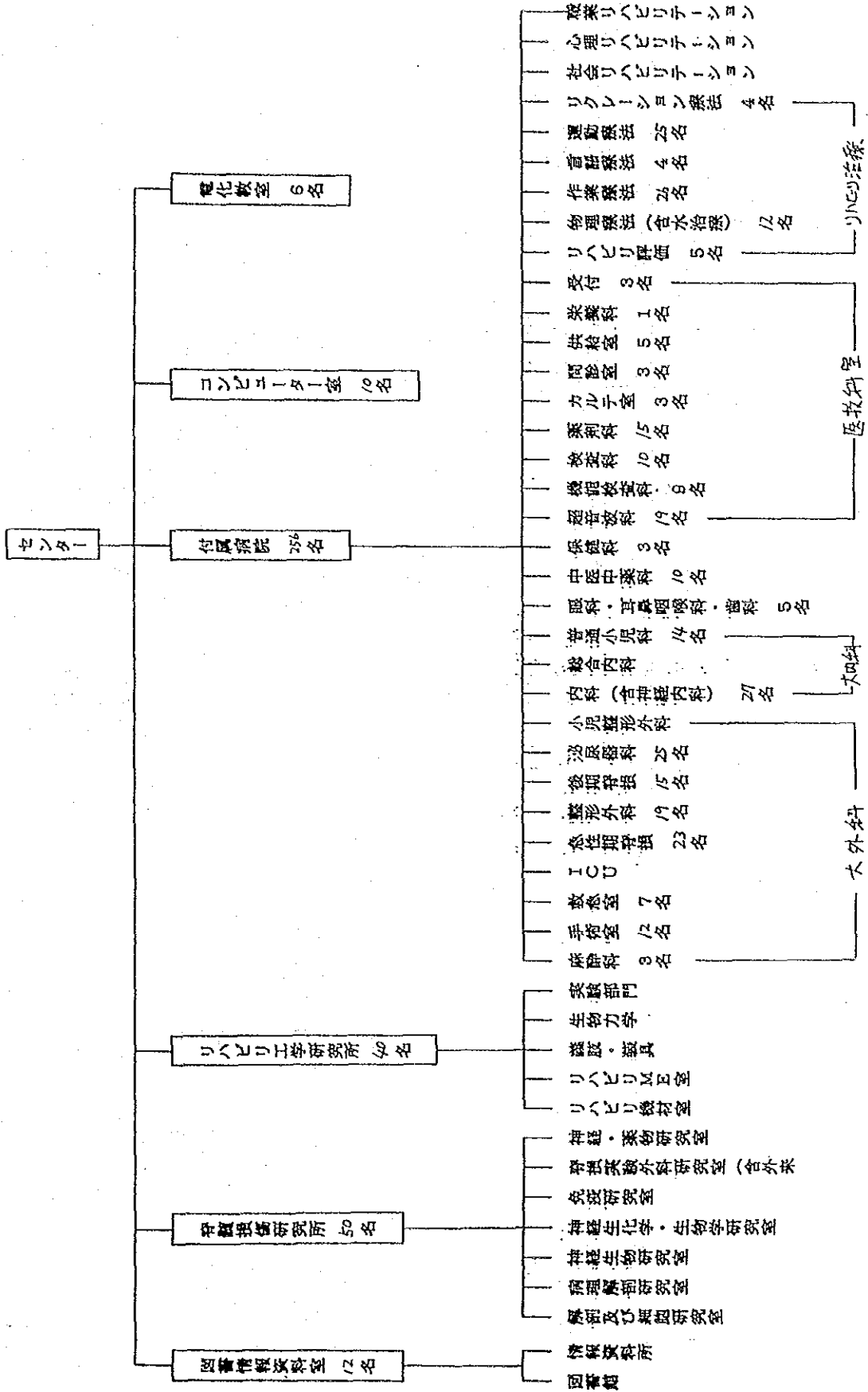
繆 鴻 石

中国肢体障害者リハビリテーション
研究センター 副主任

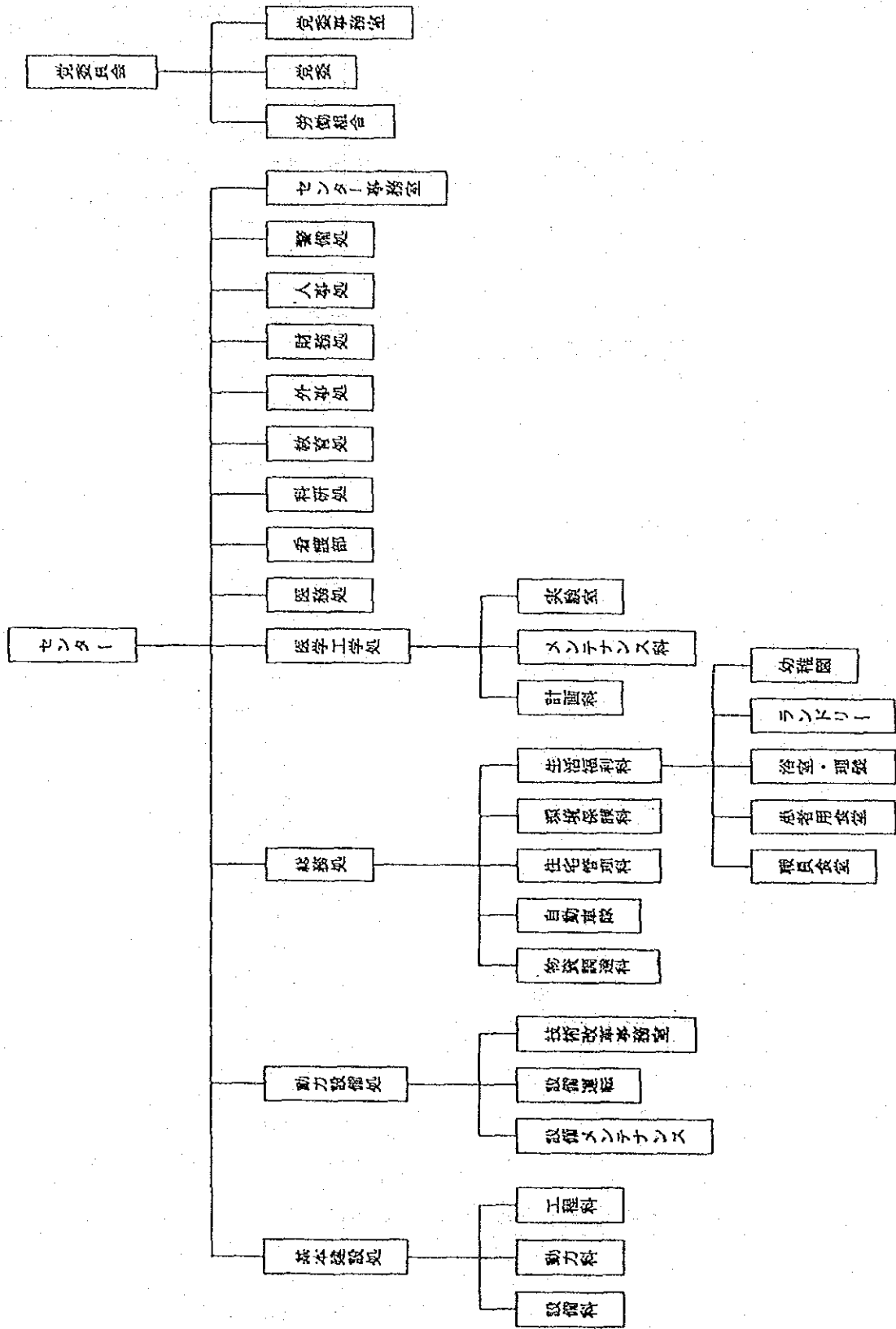
〈 施工工事總進度計畫 〉



業務部門機構図



行政管理部門機構図



中国リハビリテーション 研究センター

機材関係資料

(昭和61年11月)

88

63年度分

医 療 機 材

C. 10/9. 三井物産. 設備. 器具. 備品. 等. 購入. 品目. 表. (1)

1955年 5月

Nursing Care Equipments

B1.	Turning beds and mattresses (Stryker frame)	1	5
	ストライク - 回転ベッド		
B2.	Turning beds and mattresses (height adjustable)	1	1
	回転ベッド (高さ可変)		
A7.	Ordinary wheelchairs and cushions	6	6
	通常型車イス クッション		
A4.	Wheelchairs for bathing	4	4
	シャワー用車イス		
A5.	Wheel chairs for stool	4	4
	トイレ用車イス		
B6.	Electrical wheelchairs (床座, 4輪, 1台別項)	4	16
	電動車イス		4x4
A7.	Walkers (walkers)	10	10
	歩行器		
A9.	Urinary Catheters (Foley type and ordinary)	100	100
	尿管用カテーテル		
A9.	Urinals and adhesive for condoms	100	100
	トイレ用器具		
A10.	Spirometer	1	1
	スパイロメーター		
A11.	Ultrasonic nebulizer	1	1
	超音波霧化器		

Expenditure

E1.	Contrast media for myelography	800	800
	Amipaque 脊髄造影剤 (イソパ-7) (シーラック)	50	50
E2.	Fast Setting Material for fractures	1000	1000
	(Polymethylene) 骨固定材料 (CT-200-01) ADL エステル	5箱	5000
C3.	Esclofen	5mg	100 mg
	エスコフェン (イソブチル) 5mg		
C4.	Flavoxate hydrochloride	200 mg	200 mg
	フラボキサート (E-200) 200mg錠		
C5.	Oxybutynin chloride	150 mg	150 mg
	オキシブチニン塩化物		
C6.	Gentamycin besoc	50 ch	50 ch
	ゲンタマイシンベソ		

C

- ~~B10. Foam-soft-collar (水原=製) 5-3~~
ソフトカラ-装置
- ~~B11. Firm-Plastic-to (Shibata=design) 1-6~~
フィラデルフィアカラ-装置 (谷=義=製)
Collar
- B12. SOMI Orthosis (Thomas Collar) (谷=義=製) 4-5**
ソミ=装置
(Sternal-Occipital Mandibular immobilizer
occipital)
- A13. Halo-type cervical orthoses attached to 1**
ハロ=タイプ=ジャケット (谷=義=製) 4-3
a polyethylene jacket
- ~~B14. Pneumatic Orthoses (水原=義=製) 2~~
- ~~B15. Wrist-driven prehension Orthoses 2~~
- ~~B16. Fingers-driven prehension orthoses 2~~
- B17. Balanced Forearm orthoses (3F0) 1-7**
- ~~B18. Long opponens-adapted orthoses (長=指=器) 2~~
- ~~B19. Gas (CO₂)-driven prehension orthoses (CO₂=駆動=型=器) 2~~
- ~~B20. Electrically-driven prehension orthoses (電=駆動=型=器) 2~~

(C)

- C7. Diocetyl Sodium Sulfosuccinate 2000g
ソルベソル錠 (外科薬品)
- ~~C8. Diphosphonate drugs
(disodium etidronate) EHDP. (52%) 本邦薬品 1000g~~
- C9. Dantrolene Sodium 700g
デントロレン (50mg) (山崎)
- C10. Naloxane 50g
ナロキサン Naloxene 麻薬拮抗剤(0.2mg) 三共
- C11. TRH 50g
(麻薬拮抗剤) トラマ (0.5mg)

-RH Miscellaeneous

- ~~A1. Instruments for Skull Traction
頭蓋牽引装置 (Gardner-well tong etc.) 2~~
- ~~B2. Instruments for Spinal Surgery
脊椎外科用器具
Harrington instrumentation
ハリントン骨用器具~~
- → Luque Instrumentation 1
ルーケ用器具
- ~~Anterior route Instruments for Cervical
頸椎前方固定用器具
Spene surgery 1~~
- B3. Milwaukee brace 1
胸骨症用ミルウォーキー器具
- B4. Boston brace 1
ボストン器具
- B5. Electrical dermatome 1
電気式デルマトーム
- ~~B6. Dressing sheets covering skin of
手術野シース(デスホ)
the operating area~~
- ~~A7. Blood gas analyzer~~
- ~~A8. Blood gas analyzer~~
- ~~A9. Blood gas analyzer~~
- ~~A10. Blood gas analyzer~~
- 血液ガス分析装置

康文ニ程器材料原料

DIAMETRAL GAUGE ダイヤメトリルゲージ	23-66cm F4486-A 78 ^分 20 ^分 (小原ニテ)	1 SET
VERTICAL FABRICATION JIG 水平ジグ	VFJ-100 (小原ニテ)	1 SET
BALANCE-APPARATUS (バランスジグ)	743A1 (小原ニテ)	1 SET
CARVING MACHINE (カキマシ)	30 ^分 10 ^分 20 ^分 (小原ニテ)	1 SET
SOCK VACCUUM PUMP OTTO-80 ^分 真空ポンプ	75 ^分 21 (小原ニテ)	1 SET
SUBORTHOLEN PLATE サボルトレンプレート	1000x2000 13 ^分 (小原ニテ)	10 SET
POLYSER 414 PLATE ポリサ-7 ^分 プレート	610x910x5 ^分 (小原ニテ)	10 SET
ABOVE-KNEE STUMP RULER アブブキニテ	F4488 AK 2 ^分 7 ^分 10 ^分 (小原ニテ)	1 SET
BELOW-KNEE STUMP RULER ベロウキニテ	F4489 BK 2 ^分 7 ^分 10 ^分 (小原ニテ)	1 SET
GONIOMETER ゴニオメータ	PART NO 2T410 (小原ニテ)	1 SET
KNEE-WIDTH RULER キニテ	F4491 (小原ニテ)	1 SET
FILM No 6500	0.068mm x 1000mm x 100 m/ ROLL (小原ニテ)	2 ROLL
SCRAPER スクラパー	PE-200 大 小	1 SET
SURFACE FILE 表面ヤスリ	大 小	5 SET
V.A.E/K CALIPERS V.A.E/K カリパ	PART NO 2T-306 (小原ニテ)	1 SET
VACCUUM MOULDING MACHINE 真空成形機	AC220V 0.2 KW (小原ニテ)	1 SET

PLASTIC CUTTER 7° 7.5° 7.5° 7.5°	1C-1004 AC 220V (小形) 1 SET Hand type (特設)	
HEAT PLATE ヒートプレート	AC220V 300 759H2 (小形) 1 SET	1
BANDAGE (PLITCH-80)	Pilton 110 3号 40枚入 (小形) 200 rolls 4号 10枚入 (小形)	
FITTING JIG FOR BRACE	SIZE L.M.S. 2 SETS	
前後傾足関節用足板	器具同定出特 79F-2M (小形)	
	3 x 260 mm (特設)	10
	3 x 240	10
	3 x 220	10
	3 x 200	10
	3 x 175	10
前後傾足関節用 新型足板	3 x 19 x 155	40
	3 x 16 x 120	40
	3 x 13 x 105	40
CALIPER (SPLIT) STIRRUP	2.3 x 105 x 38 x 19	20
	2.3 x 80 x 25 x 16	20
	2.3 x 80 x 25 x 13	20
ANKLE JOINT SCREW		200
ANKLE JOINT NUT		200
ALUMINUM ALLOY BAR	FLAT BAR	
MATERIAL LG	LL: 6 x 24 x 1000	100
	L 5 x 20 x 1000	100
	K 5 x 18 x 1000	100
	S 5 x 16 x 1000	100
	SS 5 x 14 x 1000	100

BELOW KNEE PREFORMED
POLYPROPYLENE ORTHESIS

L 30 SETS
M 30 SETS
S 30 SETS

LIMITED ROD

100-SETS

(1) ミット・ロッド

6φ x 42mm 100

前傾足関節

5 x 16 mm 20

4.5 x 14 mm 20

4 x 12 mm 20

前傾足関節頭部

5 x 16 20

5 x 14 20

3.2 x 12 20

前傾足関節用足板

3 x 260 10

3 x 220 10

3 x 150 10

前傾足関節新型足板

3 x 22 x 158 10

3 x 19 x 158 10

2 x 13 x 105 10

前後傾足関節頭部

3 x 16 40

5 x 14 40

3.2 x 12 (WITH 40

SPLIT STIRRUPS)

HALF OVAL BAR :

L 6 x 18 x 1000.	100
M 5 x 16 x 1000	100
S 5 x 14 x 1000	100

FRENCH LOCK KNEE JOINTS
(ALUMINIUM ALLOY)

100.

HIP JOINT WITH DROP LOCK
(ALUMINIUM ALLOY)

K1-105-1

30.

K2-105-2

30.

K2-105-3

30.

Σ 90

訓 練 機 材

P.T	病院	B	矯治器	酒井医療	VT-5000
P.T	病院	B	手動治療器	OG技研	VT-2020
P.T	病院	B	手動治療器	酒井医療	ES-1
P.T	病院	B	手動治療器	OG技研	NJ-201
P.T	病院	B	超低周治療器	OG技研	HC-1
P.T	病院	B	電動式負荷運動装置	酒井医療	SPR-703
P.T	病院	B	負荷運動装置(eigometer combi)	酒井医療	
P.T	病院	B	負荷運動装置(eigometer Filtron)	酒井医療	SAO-1310
O.T	病院	B	車上式訓練(足踏み式)	酒井医療	SOT-1506
O.T	病院	B	足踏み式くろ	酒井医療	SOT-1327
O.T	病院	B	七宝旗用具セット	酒井医療	SOT-1305

P.T	分院	B	手動治療器	酒井医療	VT-2020
P.T	分院	B	手動治療器	OG技研	CA-2
P.T	分院	B	手動治療器	酒井医療	ES-1
P.T	分院	B	手動治療器	酒井医療	SPR-3000
P.T	分院	B	歩行訓練用階段	酒井医療	SPR-338
P.T	分院	B	頸部・腰部牽引装置	酒井医療	OL-200
P.T	分院	B	Oxygen Congruence Analysis System	住友製薬	ST-1029
O.T	分院	B	E.H.G. Biofeedback Trainer	酒井医療	SAO-1310
O.T	分院	B	車上訓練(足踏み式)	酒井医療	SOT-1506
O.T	分院	B	車上訓練	酒井医療	SOT-1505
O.T	分院	B	球蹴	酒井医療	SOT-1510
O.T	分院	B	電動式糸鋸	酒井医療	SOT-1104
O.T	分院	B	足踏み式くろ	酒井医療	SOT-1327
O.T	分院	B	電動式くろ	酒井医療	SOT-1325
O.T	分院	B	電氣戸	酒井医療	SOT-1322
O.T	分院	B	補修用ミシン(八方ミシン)	住友製薬	
O.T	分院	B	手鏡	住友製薬	ST-5031
O.T	分院	B	テレビゲーム	酒井医療	SAO-701
O.T	分院	B	彫刻作業用具	酒井医療	
O.T	分院	B	手動訓練用ボタンの組セット	酒井医療	

日中双方关于中国康复研究中心项目技术合作的会谈纪要

由日本国际协力事业团组织的、以国立身体障害者康复中心总长 泽山直一博士为团长的日本计划协商调查团，为了就“中国康复研究中心项目技术合作的会谈纪要上的具体内容和今后实施计划进行调整和磋商，于1987年12月7日至12月11日对中华人民共和国进行了访问。

调查团与中国康复研究中心的刘京主任及其他有关人员，就今后如何有效实施技术合作、培训研究中心的技术骨干人员、派遣专家、接受研修人员及研究中心开院后的合作方式等一系列问题进行了协商。

双方协商内容的要点记录如下：

1. 项目的进展状况

(1). 中国康复研究中心设施建设进展状况。

关于建筑物：目前已按最初的工程表（附件1）完成了67%，预定到1988年9月完全建成。

(2). 为开院的准备情况

① 职员

研究中心的职员配置按组织图（附件2）已经决定，予定职员人数为11名，其中管理部门（附件3）的职员人数为2名左右。

② 设备器材

安装设备所必需的建筑物的内装修工程至1988年4月全部完成，另

2. 由日方提供的器材至1988年2月止全部运到。

③ 经费来源

中华人民共和国国务院特批准组建中国残疾人联合会，令由中国残疾人福利基金会以其下属的组织形式存在。因此，研究中心的预算经费由国家拨给及中国残疾人福利基金会拨给。

④ 开院

预定于1988年10月份开院。但从1988年8月中旬起将第一期住院向研究中心移送患者开始治疗。

2. 具体技术协作的内容

(1). 调整1987年度后期计划

进展顺利，无必要变更

(2). 1988年度骨干培训计划

①. OT、PT后期的研修

期间：最初的预定有所变更，改为从1988年7月1日至1989年2月28日共8个月。

地点：研究中心（讲课、实习）

对象：原则上以学完前期的学员为对象，但根据中方的意见，可在全体不超过50名的范围内适当增加学员人数。

方法：从1988年7月1日起，至同年8月31日止，以讲课为主，9月1日以后以实习为主。9月份以后，将学员分为两班进行实习，两

回国个别学习1个月，准备3个月。

其他：在后期研修班开始前，将采取多种方式，使前期的学员们记住已学到的知识。关于具体方法，将在双方协商的基础上尽快地作出决定。

② 护理研修

时间：比当初预定推迟1个月，从1989年10月开始为期3个月。

地点：研究中心（讲课、实习）

对象：原则上以中日友好医院卫校代培的护士为对象，学生数限额60名。

③ 第二次医师研修

时间：整个时间定为6个月，自1989年7月开始。

地点：研究中心（讲课、实习）

对象：以医科大学毕业的50名医师为对象。

④ 康复医疗指导小组派遣事宜

中国方面提出要求，希望研究中心开院后尽快派遣脊髓损伤、偏瘫、脑瘫等方面的康复医疗指导小组。关于具体派遣时期、人数等问题，待今后双方协商后商定。

3. 专家的派遣

① 派遣时间、人数等

关于日本专家的派遣时间及人数等问题，待研修会的学习计划制定完成后，由双方进行协商，力图尽快决定。

另外，申请表（A₁表）要尽快向日方提出。

② 专家的宿舍

在研究中心的指导开始后，日本专家的宿舍问题中国方面明确表示，准备研究中心职员宿舍。另外，日本方面就住宿饭店一事也提出请求予以研究，中国方面对此明确表示，尽最大努力满足日方要求。

(4) 接受研修人员

1988年度中方予定派遣 ① 泌尿器科 ② 职业康复 ③ 小儿骨科 ④ 电气生理 ⑤ 电子显微镜与病理等专业的五名医师或专家，希望从1988年4月以后起，为期一年。早日提出申请表（A₂ A₃表）以明确希望研修的事项。

1989年度的待研究中心开院后再研究。

(5) 器材的提供

中国方面就1988年度器材问题按附件提出了请求。

关于1989年度器材问题，待研究中心开院后，力图尽快地由中方提出要求，并在双方协商之后再定。

3. 关于中国康复研究中心开院后的技术合作

开院后中心的作用，不但要进行治疗，而且应当成为全国范围的康复专家的教育机构。双方均应为实现这一目标作出努力。对此意见一致。在今后的技术协作方面，也应以研究中心能够依靠中国人用中文进行专门教育为目标，实施教育训练。

另外中方提出，为了提高研究中心各部门的运营效率，并提高整体的水平，希望派遣管理部门的专家的要求。同时还提出，如果可能的话，希望能接受为期1~3个月的管理干部研修。

对此日方将带着这个问题回去，与有关方面商定后再作答复。

4. 关于研究中心变更名称

由中方做了如下说明。为了使现在的中文名称「中国肢体伤残康复研究中心」与英文名「CHINA REHABILITATION RESEARCH CENTER (CRRC)」取得一致，及力争进一步多方面地进行康复研究，故改名为「中国康复研究中心」。

于：北京

一九八七·十二·十一

津山直一

日本计划协商调查团团长
日本国际协力事业团

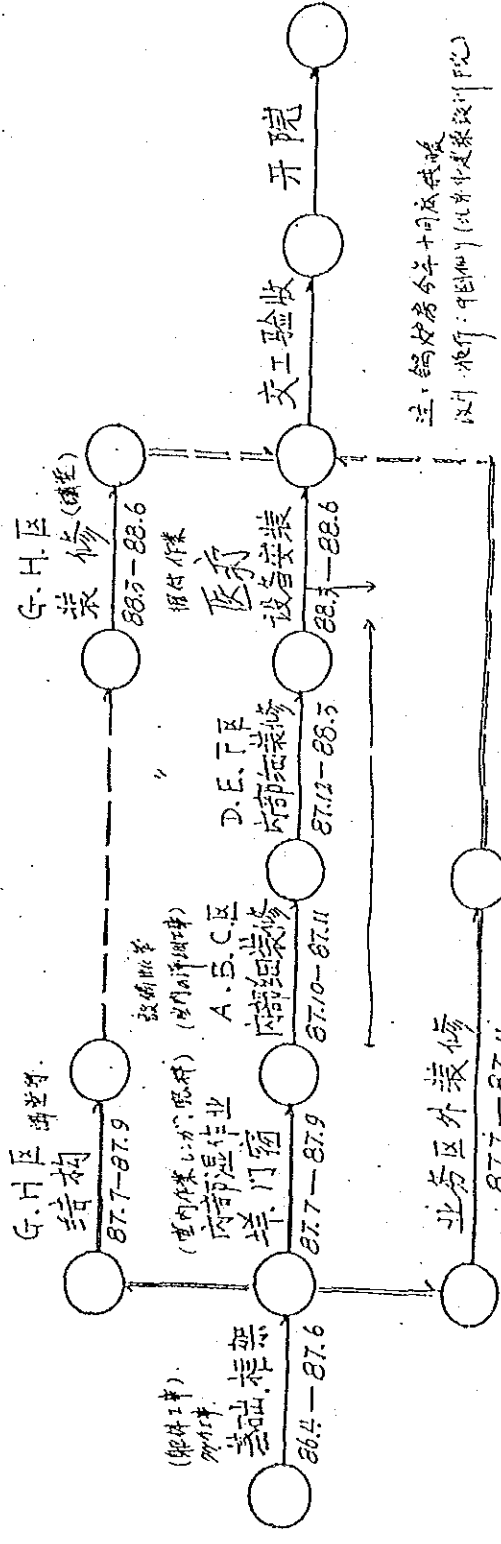
中国康复研究中心

石鸿恩

工程施工总进度计划

基础

工程名称	87												88											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A. 外廊板																								
B. 内廊板																								
C. (内廊板)																								
D. 外廊板																								
E. 内廊板																								
F. 外廊板																								
G. 内廊板																								
H. 外廊板																								
I. 内廊板																								
J. 外廊板																								
K. 内廊板																								
L. 外廊板																								
M. 内廊板																								
N. 外廊板																								
O. 内廊板																								
P. 外廊板																								
Q. 内廊板																								
R. 外廊板																								
S. 内廊板																								
T. 外廊板																								
U. 内廊板																								
V. 外廊板																								
W. 内廊板																								
X. 外廊板																								
Y. 内廊板																								
Z. 外廊板																								



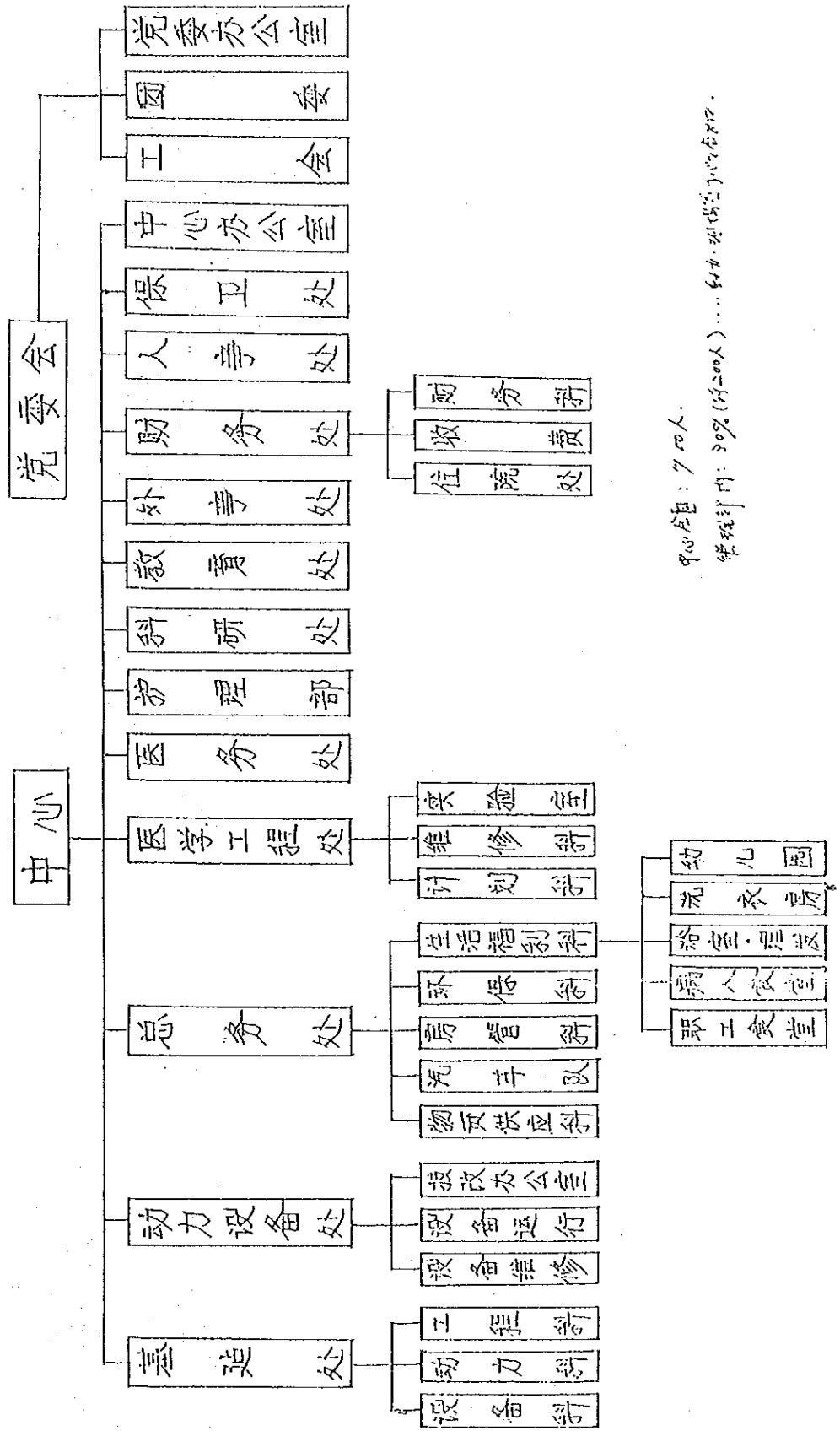
注：基础工程：86.4-87.6
 业务区外装饰：87.7-87.11
 竣工验收：88.5-88.6
 开院：88.5-88.6

备注：基础工程：86.4-87.6
 业务区外装饰：87.7-87.11
 竣工验收：88.5-88.6
 开院：88.5-88.6

说明：基础工程：86.4-87.6
 业务区外装饰：87.7-87.11
 竣工验收：88.5-88.6
 开院：88.5-88.6

美

行政管理部門机构設置



中心总值：700人。
 保健科：200人（含200人）……科、现保健科、中心总值。

7 協力実績

7-1 専門家派遣実績

〔61年度〕

氏名	所属機関	役職	派遣期間
二瓶隆一	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院	病院長	1987 2/20～3/17
鷹野昭士	病院診療部整形外科	整形外科医長	2/20～4/3
川井伸夫	病院第一機能回復訓練部	理学療法士副主任	3/14～4/3
木村哲彦	病院第一機能回復訓練部	部長	3/25～5/3

〔62年度〕

氏名	所属機関	役職	派遣期間
矢野英雄	国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所運動機能系障害研究部	部長	4/1～4/15
君塚葵	心身障害児総合医療療育センター	部長	4/15～5/1
丹羽滋郎	愛知医科大学整形外科学	教授	4/26～5/3
陶山哲夫	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院診療部	外科医長	4/30～6/3
柳迫康夫	心身障害児総合医療療育センター整形外科	医長	4/30～5/15
高山忠雄	国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所	障害福祉研究部長	5/10～5/17
初山泰弘	国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所	所長	5/15～6/2
岩谷力	自治医科大学医学部	教授	5/25～6/20
落合美美子	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院看護部	看護部長	5/31～6/9
佐藤忠	更生訓練所指導部相談判定課	主任心理判定専門	5/31～6/9
藤田郁代	病院第二機能回復訓練部	言語訓練専門職	5/31～6/9
牛山武久	病院診療部	泌尿器科医長	5/31～6/16
五味重春	東京都立医療技術短期大学	学長	6/16～6/19
伊藤宣義	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院	主幹	6/16～6/21
原徹也	東京都立広尾病院	整形外科部長	6/16～6/24
谷口和彦	静岡県立こども病院整形外科	医長	6/21～7/3
高橋雅足	東京都立広尾病院整形外科	医長	6/22～6/30
高橋勇	独協医科大学リハビリテーション科	教授	7/1～7/8
江藤文夫	東京大学医学部附属病院リハビリテーション部	講師	7/1～7/15
鈴木愉	自治医科大学整形外科	助手	7/5～7/31
二瓶隆一	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院	病院長	7/9～7/15

氏名	所属機関	役職名	派遣期間
二瓶健次	国立小児病院神経科	医 長	7/14~ 7/22
大川嗣雄	横浜市立大学医学部病院リハビリテーション科	教 授	7/13~ 7/18
明石謙	川崎医科大学リハビリテーション科	教 授	7/20~ 7/25
岩倉博光	帝京大学医学部リハビリテーション部	教 授	7/23~ 8/ 3
草野修輔	東京都養育院リハビリテーション部	医 長	7/29~ 8/11
田村美枝子	国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院, 理学療法科	教 育 主 事	7/29~ 8/12
矢谷令子	作業療法科	教 育 主 事	8/ 3~ 8/20
林泰史	東京都養育院リハビリテーション部	部 長	8/ 9~ 8/16
村尾俊明	厚生省社会局更生課	課 長 補 佐	8/10~ 8/16
二瓶隆一	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院	病 院 長	8/10~ 8/21
坂口亮	心身障害児総合医療療育センター	所 長	8/13~ 8/21
津山直一	国立身体障害者リハビリテーションセンター	総 長	8/13~ 8/21
針谷達志	病院管理研究所経営管理部	部 長	8/16~ 8/21
木村哲彦	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院第一機能回復訓練部	部 長	8/28~ 9/ 5
中島富美子	病院第一機能回復訓練部	作業療法士長	8/28~ 9/ 5
山口昇	病院第一機能回復訓練部	副主任作業療法士	1988 8/28~ 2/29
岩崎洋	病院第一機能回復訓練部	副主任理学療法士	8/28~12/26
加藤幸男			1989 8/28~ 8/27
加藤洋子			1989 8/28~ 8/27
津山直一	国立身体障害者リハビリテーションセンター	総 長	8/31~ 9/ 5
松村秩	東京都立医療技術短期大学理学療法学科	教 授	8/31~ 9/ 5
矢谷令子	国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院, 作業療法科	教 育 主 事	8/31~ 9/ 5
田村美枝子	理学療法科	教 育 主 事	8/31~10/31
古川良三	愛知医科大学附属病院リハビリテーション部(中部リハビリテーション専門学校)	技 師 長	1988 10/29~ 1/ 9
鈴木正彦	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院第一機能回復訓練部	理学療法士長	11/ 7~11/22
小平憲子	神戸大学医療技術短期大学部作業療法学科	助 教 授	11/15~11/22
杉原素子	東京都心身障害者福祉センター-肢体不自由科	科 長	11/22~11/29
渡辺京子	亀田総合病院リハビリテーションセンター	室 長	12/ 6~12/14
荻原新八郎	金沢大学医療技術短期大学部理学療法学科	助 教 授	12/13~12/19
宮前珠子	国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所運動機能系障害研究部	室 長	1988 12/31~ 2/29
後藤充孝	病院第一機能回復訓練部	厚生省臨床指導員	1988 1988 1/ 2~ 2/29

7-2 研修員受入実績

[61年度] (受入期間 1987年3月29日～1988年3月28日)

氏 名	役 職	研 修 受 入 機 関
于 允 生	医 師	国立身体障害者リハビリテーションセンター，東大 附属病院，神奈川リハビリテーション病院，埼玉医 大附属病院，帝京大附属病院，関東労災病院，東京 都立北療育園，心身障害児総合医療療育センター， 神奈川県立医療小児センター 他
胡 莹 媛	医 師	
張 健	医 師	
超 吉 凤	技 師	
超 玉 杰	技 師	

[62年度] (受入期間 1987年11月9日～1988年2月29日)

余 淑 華	看 護 部 主 任 (医 師)	国立身体障害者リハビリテーションセンター
謝 德 利	看 護 部 副 主 任 (看 護 婦)	
李 介 英	看 護 婦	
王 蓮 屏	看 護 婦	
張 曉 春	看 護 婦	

7-3 機材供与実績

〔61年度〕

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
	(医療機材)		
A-1	ストライカー回転フレーム PC-124S	松本医科器械	1
2	通常型車イスクッション	東京衛材	2
3	泌尿器用カテーテル フォーリー・カテーテル(ア・カシル)	日本シロウ	
	(2way) 12号		10本
	14号		10本
	16号		20本
	18号		20本
	20号		10本
	22号		10本
	(3way) 16号		10本
	18号		10本
4	ユリナール一式 ユニボン 箱根式	東京衛材	
			5セット
			5セット
5	スパイロメータ 電子式スパイロメータ MER-8200 特別付属品	日本光電	1
	1) マウスピース		20箱
	2) 記録紙 PQW110-3 10巻入		10箱
6	超音波ネライザ ・ソニックライザー 205 (R0-1020) ・スタンド(R0-1030)	アトム	1

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
	(視聴覚機材その他)(消耗品含む)		
C-1	ビデオ一体型カメラ	NATIONAL	1
	NV-M5 (NTSC用)		
2	カメラ附属品	"	1
	ACコンバータ		
3	カメラ附属品	"	2
	バッテリーバック		
	VW-VB-30		
4	カメラ附属品	"	1
	システムケース		
	VW-SM-21		
5	ビデオデッキ VHS	"	1
	3システム用		
	NV-G15PX		
6	モニタTV	"	1
	3システム用		
	TC-AL2100NT		
7	ビデオデッキ ベータ	サヨー	1
	VTG-M10D		
	中国PAI-D		
8	スライド作成機	NATIONAL	1
	パナコビ°KV-3500		
9	ビデオ一体型カメラ	"	1
	NV-M5 (NTSC用)		
10	ACコンバータ	"	1
11	バッテリーバック	"	2
	VW-VB-30		

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
12.	システムケース VW-SM-21	NATIONAL	1
13.	ビデオデッキ VHS 3システム用 NV-G15PX	"	1
14.	モニタTV TC-AL2100NT	"	1
15.	スライド映写機 オムニグラフィック 252	ELMO	1
16.	スライドコーダ スライドコーダ 801	"	1
17.	レンズ F2.8 50mm	"	1
18.	レンズ F2.8 70-125mm	"	1
19.	スライドトレ- 横型 80枚	"	2
20.	小型スクリーン HW-3 三脚式 150x150	"	1
21.	パナコピー用付属品 内訳: (1) フィルム KV-15FM 108枚入 (2) 現像液 KV-15TK (3) 定着液 KV-15XE	NATIONAL	
			20
			20
			20
22.	複写機 内訳: (1) キヤノン NP-270 本体 (2) " カセット A4R (3) " " B5R	キヤノン	
			1
			1
			1

[62年度]

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
	(医療機材, 教材)		
A-1	時間強度曲線描記器 CX-2 with CX-ST	OG技研	1
-2	起立訓練用傾斜ベッド SPR-3301	酒井	1
-3	マット訓練台 SPR-504	"	1
-4	オーバーヘッドフレーム SPR-4220	"	1
-5	卓上式織機 SOT-1505	"	1
-6	織機 SOT-1510	"	1
-7	電動式糸鋸 SOT-1104	"	1
-8	上肢機能測定装置 SOT-1800	"	1
-9	電動式ろくろ SOT-1325	"	1
-10	電気炉 SOT-1322	"	1
-11	皮革作業用具セット SOT-1401	"	1
-12	木工作业用セット SOT-1101	"	1
-13	家電修理用具セット	"	1
-14	スタンディングテーブル SOT-1911	"	1
-15	彫刻用具セット ST-5031	"	1
-16	浴中肋木 MK-11	"	1
-17	気泡発生装置 HBN-4000	"	1
-18	気泡発生盤 HBH-1B	"	1
-19	手首固定バンド SPR-555	"	10
-20	足首固定バンド SPR-556	"	10

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
A-21	ホールディングミット SPR-557	酒井	10
-22	重錘バンド SPR-591A	"	10
-23	" SPR-591B	"	10
-24	" SPR-591C	"	10
-25	" SPR-591D	"	10
-26	" SPR-591E	"	10
-27	" SPR-591F	"	10
-28	" SPR-591G	"	10
-29	" SPR-591X	"	10
-30	脳性マヒ児用上肢訓練椅子 SPR-160	"	1
-31	全仰式車椅子 SPR-394	"	2
-32	車椅子 Z602B	"	2
-33	" MC-125	"	2
-34	" NA-1	"	2
-35	幼児用車椅子 MS-2	"	2
-36	油圧式患者用運搬車 FL-10	"	2
-37	シャワー用車椅子 L-6872	"	2
-38	コンビエアロバイク 710	"	1
-39	多用OT台 SOT-2010	"	1
-40	車椅子訓練装置 SOT-4000	"	1
-41	ヒートパン A426-1	"	3
-42	反リバサミ A371-4	"	3
-43	エマジソバサミ A371-9	"	3
-44	ヒートガン A316-1	"	3
-45	熱溶解器 A530-1	"	3
-46	ホールパンチ A445	"	3
-47	スプリントカッター A482-2	"	3

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
A-48	ペンディングジグ A481-1	酒井	3
-49	リベットセット A367-2	"	10
-50	オルフィット S-120	"	10
-51	" S-130	"	10
-52	" S-140	"	10
-53	" S-150	"	10
-54	" S-160	"	10
-55	" S-170	"	10
-56	鉄亜鉛セット架台付 SPR-5262	"	1
-57	足踏式糸鋸 SOT-1103	"	2
-58	セラプラスト (水色 496φ) A483S16	"	30
-59	" (群青 496φ) A483M16	"	30
-60	" (青 496φ) A483F16	"	30
-61	ボタン掛, 小 R-3110	"	1
-62	" , 大 R-3111	"	1
-63	リーチャ-アクティブ 40cm R-5124	"	1
-64	" 50cm R-5125	"	1
-65	" 60cm R-5126	"	1
-66	" 70cm R-5127	"	1
-67	リーチャ-パッシブ 40cm R-5134	"	1
-68	" 50cm R-5135	"	1
-69	" 60cm R-5136	"	1
-70	" 70cm R-5137	"	1
-71	ペンホルダー, 大人用 R-7931	"	4

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
A-72	トランプ立て (DENPAN)	酒井	4
-73	マット付プラットフォーム SPR-504	"	2
-74	皮革工芸作業療法器具	"	2
	SOT-1401		
-75	湿熱敷用槽及びマット CL-12	"	1
-76	マット (エスパック, 中) CLS-12	"	1
-77	" (エスパック, ネック)	"	1
	CLS-21		
-78	" (エスパック, ショルダー)	"	1
	CLS-22		
-79	電動車椅子 MC-12S	"	1
-80	" MC-12R	"	1
-81	松葉杖 SPR-358	"	7
-82	ロフストランドクラッチ L-6351	"	7
-83	クアドリボイズケイン (ラージ)	"	6
	L-6316		
	" (スモール)	"	6
	L-6317		
-84	オートストップウォーカー L-6050	"	6
-85	L型助行器 大人用 SPR-366A	"	6
-86	" 小人用 SPR-366B	"	6
-87	歩行補助器 (大) SPR-373	"	6
-88	" (小) SPR-375	"	6
-89	モノレール式歩行訓練器	"	1
	SPR-340		
-90	転倒防止用把手付バンド	"	10
	SPR-308A, B		
-91	プッシュアップ台 (L, M, S各2ヶ)	"	10

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
	SPR-311		
A-92	東大型角度計 SPR-622	酒井	6
-93	神中式角度計 SPR-623	"	6
-94	タイマー(卓上用) SPR-612	"	24
-95	マルチン氏人体測定器	"	4
	SPR-608		
-96	ピンチメーター SPR-641	"	3
-97	" SPR-642	"	3
-98	スメドレー握力計 SPR-652	"	3
-99	デジタル握力計 SPR-655	"	2
-100	牽引用アゴ吊带 SPR-572A	"	5
-101	" SPR-572B	"	5
-102	牽引用腰推吊带 SPR-573	"	5
-103	スプリング (1Kg) SPR-574A	"	4
-104	" (2Kg) SPR-574B	"	4
-105	" (4Kg) SPR-574D	"	4
-106	" (6Kg) SPR-574F	"	4
-107	" (8Kg) SPR-574H	"	4
-108	" (12Kg) SPR-574M	"	4
-109	" (14Kg) SPR-574P	"	4
-110	" (16Kg) SPR-574R	"	4
-111	" (18Kg) SPR-574T	"	4
-112	" (20Kg) SPR-574V	"	4
-113	ナイロンテープ SPR-575	"	10m
-114	訓練用把手 SPR-563	"	10
-115	メディシンボール SPR-589	"	3
-116	ペグボード (大) SOT-2101	"	6
-117	" (小) SOT-2102	"	6

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
A-118	ベグボード (小) SPT-2103	酒井	6
-119	ベグボードスタンド SPT-2104	"	6
-120	牽引用胸部吊带 SPR-577	"	4
-121	訓練用吊带 (単) SPR-564A	"	2
-122	" (双) SPR-564B	"	2
-123	簡易滑車 SPR-565A	"	10
-124	取付滑車 SPR-565C	"	10
-125	ロープ取り外し滑車 SPR-566A	"	10
-126	滑車取り付け金具 SPR-566B	"	10
-127	S環 SPR-567	"	10
-128	自在木 SPR-568	"	10
-129	床フック SPR-569	"	6
-130	天上フック SPR-569C	"	6
-131	パイプ用自在滑車 SPR-570A	"	10
-132	パイプ用自在フック SPR-570B	"	10
-133	デュアルレンジ電子上皿天秤 EB-330D	島津	1
-134	電子天秤用風防ケース	"	1
-135	コンパクトオシロスコープ VP-5610A	松下	1
-136	オシロスコープ VP-5231A	"	2
-137	デジタルマルチメーター VP-2661B	"	1
-138	ユニバーサルカウンター VP-4546A	"	1
-139	ギャジベッド KA-453	パラマウント	3
-140	" KA-481	"	3
-142	" KA-488	"	1

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
-143	ギャジベッド KA-565	バラマウント	1
-144	" KA-575	"	1
-145	床頭台 KF-370	"	10
-146	マットレス KE-181	"	2
-147	" KE-171	"	2
-148	" KE-900	"	2
-149	" KE-303	"	2
-150	" KE-401	"	2
-151	" KE-761	"	2
-152	人形(実習モデル京子人形)	京都科学標本	3
B-1	スライドタイマー T-2	ELMO	1

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
	<教材>		
1	歩行補助器(獲折リ長み) L 6000	酒井医療	2
2	" (L型) SPR 366A	"	2
3	" SPR 373	"	2
4	アンダーアームフランチ(大) L 6231	"	2
5	ロフトストラッドフランチ(大) L 6351	"	2
6	オルソケイン L 6322	"	2
7	クワッドケイン(四支点杖) L 6310	"	2
8	三角マット(ウェッジ) T 0795F	プレストン	2
9	" (") T 0795L	"	2
10	プッシュアップ台(大・中・小) セット SPR 311	酒井医療	1セット
11	ロール(大) T 0794A	プレストン	1
12	ロール(中) T 0794F	"	1
13	ロール(小) T 0794E	"	1
14	トレーニングボール(大) T 0769L	"	1
15	" (中) T 0769M	"	1
16	訓練用ブロック SPR 536	酒井医療	1セット
17	角度計(プラスチック) 1039	日本ビシテーズ	10
18	自動車運動練習器 SPR 251	酒井医療	1
19	棒体採用棒(大・中・小) セット SPR 531	"	2
20	重錘バンド ベージュ 5.0kg 1104	日本ビシテーズ	2
21	" 青緑 7.5kg 1105	"	2
22	訓練用マット SPR 501	酒井医療	1
23	マルチ式人体測定機 SPR-608	"	1
24	ビーズパット	フレラ	1

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
25	マットレス (ウレタン) KE-900	パラマウント	1
26	" KE-900	"	1
27	" KE-900	"	1
28	" (70-7-ジョイント) AF6300	酒井医療	1
29	三点識別計 PC 5133A	住友製薬	4
30	ピンチメーター SPR 641	酒井医療	2
31	エラストット 64入 TE1902	東京衛材	10
32	" " TE1904	"	10
33	ストックネット TE1602	"	5
34	" TE1603	"	5
35	ストップウォッチ GA30-4	学研	15
36	キャスター椅子 CR-4	"	1
37	マイクU97-日本版 6339	日研電子	1セット
38	一般職業病性検査(第2)88657	学研	1セット
39	皮革工芸作業療法器具 SOT-1401	酒井医療	10セット
40	木工作業療法器具 Bセット	"	10セット
	SOT-1102		
41	低周波治療装置 LS-101	"	1
42	7-リングエバリエーションキット BK-1400	ADLER	1
43	7-リングホルダー BK-4082	"	1
44	スリッパオンラインライティングボード	"	1
	BK-4092-02		
45	スリッパペンシルホルダー	"	1
	BK-6058		
46	サイドライティングペンシルホルダー	"	1
	BK-6055-01		
47	サイドライティングペンシルホルダー	"	1
	BK-6055-02		

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
75	国産ベルクロ普通(白・メス) 1S-113-25	小原工業所	1
76	" (白・メス) 1S-114-25	"	1
77	ベルクロホスビタルボックス(白・メス) 1S-109	"	2
78	" 1S-110	"	2
79	角カン 5004入 長径12mm	"	1
80	" " 長径25mm	"	1
81	Dリング " 長径13mm	"	1
82	" " 長径25mm	"	1
83	カシメ 20004入 中φ8mm	"	1
84	強カゲージ絆テープ S-201	"	1
85	モビルアームサポート(左右)27×70	パラダイブ社	1
86	スプリングバランサー(左右)	"	1
87	フバリ止めマット(方形)	ADLエクス	1
88	リチャ-パッシブ R 5126	湘井医務	1
89	" R 5127	"	1
90	パレロロール T-0163B	プレストーン	1
91	バランスボード 1807	日本ビビテニス	1
92	バル-ントレーサー 150cm 1848	"	1
93	サンディング用ヤスリ台 SOT-1802	湘井医務	1
94	サンディングブロック SOT-1803	"	1セット
95	ベグボードセット 4点セット SOT-2100	"	1セット
96	セラ7°ラスト SPR-105	"	5
97	デッキ輸送機 SPR-586	"	1
98	ホルディングミット布製 SPR 557	"	1

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
48	ローラー付ペンホルダー L-609	ADLエクスプレス	1
49	ハンドブレイク B-403	"	1
50	77度ブレイクインスペクションミラー BK-6220	"	1
51	ヘルメットパッド L-101	"	1
52	" L-102	"	1
53	" L-103	"	1
54	靴下エイド L-202-01	"	1
55	バンストエイド L-203	"	1
56	グライセルシートロール L-304	"	1
57	ボタンエイド L-200-01	"	1
58	" L-200-02	"	1
59	ドレーシングパッド L-150-01	"	1
60	" L-150-02	"	1
61	起キレポリラター T-402	"	1
62	長柄くし L-606-01	"	1
64	迷身用ブレイク B-400-02	ADLエクスプレス	1
65	ジャンボブレイクパン	小原工業所	10
66	ヒートガン IC-1006	"	10
67	回転パンチ IC-1005	"	10
68	反リバサミ A371-4	函井産業	10
69	スプリットカッター A482-2	"	10
70	サンスプリットXR A-1002	小原工業所	10
71	オーソブレイク A-2001	"	10
72	ブラスランガイブ(2型)12ヶ入 TE-1082	東京衛材	10
73	" (3型)18ヶ入 TE-1083	"	10
74	歯科用石膏 18kg	小原工業所	3

番号	品名及び仕様	メーカー名	数量
99	1F 杯 10kg	小原工務所	2
100	" 40kg	"	2
	<医療機材>		
101	短波治療装置 MJ-201	酒井医務	1
102	パラフィン浴装置 PB-III	"	1
103	バックウォーター CL-11	"	1
104	バックウォーター用パッド(背)CLS-12	"	5
105	" (頸)CLS-21	"	5
106	" (肩)CLS-22	"	5
107	起立訓練用傾斜パッド SPR-3301	"	1
108	マット訓練台 2000×1200×450 ^{mm} SPR-504	"	2
109	歩行補助平行棒 SPR-3210	"	1
110	姿勢矯正用単面鏡 SPR-5120	"	2

図 書 名	出 版 社
リハ関係VTR-全10巻リハナーシング	ホルブ社
PT、OT誌バックナンバーVOL14~19	東亜ブック
総合リハバックナンバーVOL1~13	東亜ブック
リハ医学全書-全22巻	医歯薬出版
ダニエルのMMT	協同医書出版
リハビリテーション技術全書 第2版	医学書院
図解四肢と脊柱の診かた	医歯薬出版
生体観察	南山堂
基礎運動学	医歯薬出版
体のアライメントと機能	医歯薬出版
中枢神経疾患の理学療法	医歯薬出版
中枢神経疾患の作業療法	医歯薬出版
手の外傷	医歯薬出版
手の末梢神経障害	南江堂
手の装具療法	医学書院
テーピングの実態	南江堂
脳性麻痺の整形外科治療	医歯薬出版
臨床筋電図	協同医書出版
臨床筋電図入門	金原出版
脊髄損傷	金原出版
脊髄麻痺	協同医書出版
小児の整形外科	医歯薬出版
整形外科学、外傷学	文光堂
義肢装具のチェックポイント	医学書院
義肢装具のための基礎知識-全4巻	医歯薬出版
脳卒中片麻痺患者の下肢装具	医歯薬出版
装具	医学書院
装具治療マニュアル	医歯薬出版
脊髄損傷マニュアル	医学書院
四肢麻痺と対麻痺のリハビリテーション	医学書院
身体障害者のスポーツ	医学書院
日常生活動作	医歯薬出版

ウィラード、スパックマン作業療法—全3巻	協同医書出版
セラピストのためのボディメカニクス	協同医書出版
PT・OTのための神経生理学プログラム演習	
1. 筋紡錘	医歯薬出版
2. 運動発達と反射	医歯薬出版
カリエの痛みシリーズ—全7巻	医歯薬出版
リウマチ疾患	協同医書出版
脳性麻痺研究—全3巻	協同医書出版
脳性麻痺児の基礎学習能力	協同医書出版
脳性麻痺の類型別運動発達	医歯薬出版
発達障害の評価と治療	協同医書出版
発達障害児 上・下	医歯薬出版
学習障害児 上・下	医歯薬出版
感覚統合と学習障害	協同医書出版
子供の発達と感覚統合	協同医書出版
ベッドサイドの神経の診かた	南山堂
感覚統合研究—全2巻	協同医書出版
義手	医学書院
自助具	医歯薬出版
バイタルサイン	医学書院
ベッドサイドの呼吸器病学	栄光堂
呼吸生理学入門	MEDSI
慢性呼吸不全の運動療法	医歯薬出版
冠動脈疾患の運動療法	協同医書出版
虚血性心疾患と運動	医学書院
物理療法の実際	南山堂
物理療法の全て	医歯薬出版
理学療法VOL1~3 全16冊	
リハビリテーション基礎医学	医学書院
リハビリテーション整形外科学	医学書院
KRUSENリハビリテーション体系	医歯薬出版
リハビリテーション神経学	医歯薬出版
運動器疾患とリハビリテーション	医歯薬出版

リハビリテーションを考える	青木書店
世界のリハビリテーション	医歯薬出版
リハビリテーション白書	医歯薬出版
失行・失認の評価と治療	医学書院
失語・失読・失書	協同医書出版
高次脳機能検査法	医歯薬出版
図説 脳卒中のリハビリテーション	医学書院
目でみる脳卒中リハビリテーション	東大出版会
脳卒中片麻痺の肩	医歯薬出版
脳卒中の理学療法	協同医書出版
目でみるリハビリテーション医学	東大出版会
バイオフィードバック法の基礎と臨床	杏林書院
ベッドサイドの牽引療法	協同医書出版
キャストマニュアル	医学書院
片麻痺の運動療法	医歯薬出版
片麻痺の評価と治療	医歯薬出版
痛みーリハにおけるアプローチ	医学書院
理学療法概論	医歯薬出版
神経筋促進手技	協同医書出版
ブロンプトン病院の胸部理学療法	医学書院
脊髄・脊髄疾患ー診断と治療	医歯薬出版
THE SPINAL CORD	医学書院
身体障害者の心理と行動	医学書院

書名	出版社
看護学大事典	メディカルフレンド
インサイクロペディア 看護事典	
看護論	日本看護協会
看護の定義と概念	日本看護協会
これからの看護	日本看護協会
よりよい看護実践能力の育成をめざして	メディカルフレンド
21世紀の医療-看護を考える	メディカルフレンド
看護プロセスと問題解決	看護協会出版会
看護過程とナースングの実際	医学書院
看護過程ケアの科学的アプローチ	医学書院
看護過程を使う	看護協会出版会
看護過程	メディカルフレンド
セントラル・ステーリルサプライ	医学書院
院内感染-その原因と予防	医学書院
図説手術器械のすべて (全5巻)	医歯薬出版
各科手術別手術介助手順	医学書院
麻酔介助と看護の実際	医学書院
人体局所解剖学 I、II	医歯薬出版
手術室看護手順	医学書院
患者への新しい接近法	医学書院
ヘルスケアに必要なコミュニケーション	医学書院
看護にいかす交流分析	医学書院
看護活動における人間関係	看護協会出版会
コミュニケーション-効果的な看護を展開する鍵	看護協会出版会

書名	出版社
統計学入門	医学書院
看護の原理と実際	メディカルフレンド
看護の基礎分析 I, II.	ヒロカリ書店
基礎看護手順 I, II.	ヒロカリ書店
看護技術学習書	看護協会出版会
食事、栄養管理ハンドブック	メディカルフレンド
臨床栄養学	医歯薬出版
治療食の理論と実際	光生館
ハイタルサイン - そのとらえ方とケアの生かし方	医学書院
不整脈の理解とプライマリケア	医学書院
看護観察	医学書院
ナーシング フォト ブック 第1 ~ 5 巻	????
看護研究の基礎	医学書院
看護研究	医学書院
看護研究入門	メディカルフレンド
研究の手引き	医学書院
最新看護学全書 1 ~ 35 巻	メディカルフレンド
看護管理者のためのマネジメント	医学書院
看護サービス管理	看護協会出版会
看護場面上におけるリーダーシップとマネジメント	医学書院
臨床看護学 I, II.	医歯薬出版
看護大系 I, II.	文光堂
看護学総論	金芳堂
看護学総論 (i) (2)	金原出版

書名	出版社
シェアラーリ臨床成人看護学	医学書院
成人看護学 I. II.	金芳堂
成人看護学総論	金原出版
写真でみる整形外科看護	医学書院
日常生活動作評価と訓練の実際	医歯薬出版
リハビリテーション看護	医歯薬出版
カラーオイド唇瘡ケア	メディカルフレンド
看護理論集	看護協会出版会
キング看護理論	医学書院
二つの看護覚え書き	看護協会出版会
看護モデル - その理論と応用	看護協会出版会
看護の基礎となるもの	医学書院
オレム看護論	医学書院
救急蘇生法と看護	ライフサイエンスインター
看護教育シリーズ(1) 酸素吸入	ビデオバックニッポン
看護教育シリーズ(2) 吸引 上, 下	ビデオバックニッポン
看護教育シリーズ(3) 片麻痺の看護 上, 下	ビデオバックニッポン
看護教育シリーズ(4) 牽引 上, 下	ビデオバックニッポン
看護教育シリーズ(4) 唇瘡 上, 下	ビデオバックニッポン
看護教育シリーズ(5) 体位変換	ビデオバックニッポン
看護教育シリーズ(6) フロレンス ナイチンガール	ビデオバックニッポン
看護教育シリーズ(8) 看護の役割	ビデオバックニッポン
看護教育シリーズ(9) ベッド、バス	ビデオバックニッポン
看護教育シリーズ(10) 支え方、動かし方	ビデオバックニッポン
看護教育シリーズ(11) 輸送	ビデオバックニッポン

痛み—リハビリテーションにおけるアプローチ	石田 榮	編	医学書院
運動学実習	中村 隆一	他編	医歯薬出版
運動器疾患とリハビリテーション	岩倉 博光	他編	医歯薬出版
運動性損傷検査 (F. L. Darley 他著)	柴田 貞雄	訳	医歯薬出版
運動療法	阿部 正田	他編	朝倉書店
カードつき 運動療法—頭・肩・腕・腰のいたみ	石田 眞	他著	医学書院
学習障害児(下)—行動療法、医療と指導形態 (B. R. Gearheart 著)	佐藤 公治	訳	医歯薬出版
学習障害児のリハビリテーション (J. B. de Quirós 他著)	鷺田 孝保	他訳	医歯薬出版
下肢切断者のリハビリテーション (W. Humm 著)	川村 次郎	他訳	医歯薬出版
肩こり・腰痛のストレッチング	中村 栄太郎	他著	金原出版
片麻痺の運動療法 (S. Brunnstrom)	佐久間 積剛	他訳	医歯薬出版
片麻痺の評価と治療 (第2版) (B. Bubath 著)	梶伊 克昌	訳	医歯薬出版
冠動脈疾患の運動療法—予防・診断・治療のための役割 (第2版) (G. F. Fletcher 他著)	土肥 豊	他訳	協同医書出版社
基礎運動学 (第2版)	中村 隆一	他著	医歯薬出版
ギプス包帯手技アトラス (第2版) (E. E. Bleck 他著)	斎藤 眞	訳	協同医書出版社
狭心症・心筋梗塞のリハビリテーション	木倉 心一	編著	南江堂
頸腕腕症候群 (金原医学新書 49)	石田 眞	著	金原出版
言語治療の理論と実際—行動変容理論によるアプローチ (第2版) (D. E. Mowrer 著)	伊藤 元信	訳	協同医書出版社
言語病理学 (W. H. Perkins 著)	佃 一郎	他訳	医歯薬出版
言語病理学診断法 (第2版) (F. L. Darley 他編著)	眞沼 暎子	他監訳	協同医書出版社
言語病理学・聴能学研究法 (F. H. Silverman 著)	伊藤 元信	他訳	協同医書出版社
口蓋裂の言語治療	福邊 鴎子	他著	医学書院
高次脳機能検査法—失行・失認・失語の本能と診断 (R. L. Strub 他著)	上田 敏	監訳	医歯薬出版
失行失認の評価と治療—成人片麻痺を中心に (E. Siev 他)	福井 陽彦	他監訳	医学書院
失語症言語治療の理論と実際 (Roberta Chapey 編)	横山 眞	監訳	創造出版
失語症と関連障害—発音・数量分類・病巣局在・回復過程	横山 眞	他監訳	医学書院
重症心身障害児の療育指針	江草 安彦	他著	医歯薬出版
集団指導療育 (M. Hari 他著)	村井 正直	訳	医歯薬出版
心筋梗塞とリハビリテーション—誰にでもわかる動脈硬化性心臓病の予防と治療	神原 啓文	他訳	杏林書院
神経筋促進手技 (第2版) (M. Knott 他著)	鎌倉 暎子	他訳	協同医書出版社
心疾患の日常管理とリハビリテーション (臨床心肺シリーズ)	「肺と心」編集同人編		克城堂出版
心臓病の運動療法—虚血性心疾患のリハビリテーション	河合 忠一	編	朝倉書店
身体障害者の心理と行動	上田 敏	他訳	医学書院
身体障害者のスポーツ (L. Guttmann 著)	市川 直恭	他訳	医歯薬出版
図解 四肢と脊椎の診かた (S. Hoppenfeld 著)	野島 元雄	監訳	医歯薬出版
正常児・異常児の運動発達検査 (M. Fiorentino 著)	松村 秩	他訳	医歯薬出版
世界のリハビリテーション—リハビリテーションと障害者福祉の国際比較	二本 立	他著	医歯薬出版
脊髄損傷マニュアル—リハビリテーション・マネージメント	矢野 徳彦	他訳	医学書院
脊髄まひ—家庭療育の手引き (サンタクララバレー医療センター編著)	斎藤 眞	編訳	協同医書出版社
器具治療マニュアル—疾患別・症状別対応	加倉井 周一	他編	医歯薬出版
側弯症の診断と治療 (R. Cailliet 著)	荻島 秀男	訳	医歯薬出版
正しい腰痛のなおしかた—カリエ博士の腰痛ガイド (R. Cailliet 著)	荻島 秀男	訳	医歯薬出版
ダフフィールド・水治療法	宮下 充正	他訳	杏林書院
中枢神経疾患の作業療法	中村 隆一	編著	医歯薬出版

中...神経疾患の理学療法—姿勢・運動異常とその治療	中村 祐一	編	医歯薬出版
聴覚障害学(第4版)(H. Davis 他著)	江口 実美	他訳	協同医書出版社
手足の不自由な人はどう歩んできたか—人他意思の変遷と義肢・装具の進歩	武智 秀夫	著	医歯薬出版
てんかんリハビリテーション(G. N. Wright 編)	伏元 波留夫	監訳	創進出版
腰痛と理学療法(ヘルズンシリーズ 2)	石田 肇	著	金原出版
徒手筋力検査法(第4版)(L. Daniels 他著)	津山 直一	他訳	協同医書出版社
日常生活動作(ADL)—評価と訓練の実践(第2版)	王屋 弘吉	他編	医歯薬出版
日常生活に生かす運動処方	青木 純一郎	他編	吉井書院
日本版アンバー式発達スクリーニング検査—JDDSTとJPDQ(増補版)(W. K. Frankenburg 原著)	上田 礼子	著	医歯薬出版
乳児の脳性運動障害(V. Vojta 著)	男	他訳	医歯薬出版
乳幼児の発達指導法(D. S. Schafer 他編)	池吉 繁	監訳	医歯薬出版
人間の手足—リハビリテーション工学へのアプローチ(P. E. Klopste 他著)	坂井 秀男	監訳	医歯薬出版
わたまり老人の介助—自立のための手助け	松月 依	著	医歯薬出版
脳性麻痺・第1集(第7回脳性麻痺研究会記録)	日奈 重信	編	協同医書出版社
脳性麻痺・第2集(第8回脳性麻痺研究会記録)	寺沢 幸一	編	協同医書出版社
脳性麻痺・第3集(第9回脳性麻痺研究会記録)	児玉 和夫	編	協同医書出版社
脳性麻痺・第4集(第10回日本脳性麻痺研究会記録)	村地 俊二	編	協同医書出版社
脳性麻痺・第5集(第11回日本脳性麻痺研究会記録)	三宅 良昌	編	協同医書出版社
脳性麻痺研究(全3巻)第1巻	津山 直一	監	協同医書出版社
脳性麻痺研究(全3巻)第2巻	津山 直一	監	協同医書出版社
脳性麻痺研究(全3巻)第3巻	津山 直一	監	協同医書出版社
脳性まひ児の家庭療育(第2版)(N. R. Finnie 著)	堀浦 一郎	監訳	医歯薬出版
脳性麻痺の異常姿勢反射(B. Bobath 著)	堀浦 一郎	他訳	医歯薬出版
脳性麻痺の運動障害—評価と治療の考え方(原著第2版)(K. Bobath 著)	寺沢 幸一	他監訳	医歯薬出版
脳性麻痺の研究	津山 直一	他編	同文書院
脳性麻痺の反射検査—早期診断と治療の手がかり(M. R. Fiorentino 著)	小池 文英	訳	医歯薬出版
脳性麻痺の類型別運動発達(B. Bobath 他著)	堀浦 一郎	監訳	医歯薬出版
脳卒中片麻痺者の下肢装具	日本義肢装具研究会	編	医歯薬出版
脳卒中片麻痺の肩(R. Cailliet 著)	荻島 秀男	訳	医歯薬出版
脳卒中のホーム・エクササイズ(第2版)	荻島 秀男	監	医歯薬出版
脳卒中のリハビリテーション	片岡 善久雄	監	医歯薬出版
バイオフィードバック法の基礎と臨床	熊本 水根	編	杏林書院
発達障害児(上)—精神発達と運動機能(N. C. Kephart 著)	大村 実	訳	医歯薬出版
発達障害児(下)—評価と訓練(N. C. Kephart)	佐藤 剛	訳	医歯薬出版
膝・足関節・足部の新しい神経-運動器協調訓練—proprioceptive exerciseの実践(C. Herveou 他著)	非原 秀俊	他訳	医歯薬出版
ブラゼルトン新生児行動評価(T. B. Brazelton 著)	鈴木 良平	監訳	医歯薬出版
ベッドサイドの牽引療法—自己学習方式による(G. K. Carini 他著)	大井 淑雄	監訳	協同医書出版社
ボイタの構想による神経運動学的診断法(T. Hellbrügge 編)	福嶋 正和	訳	医歯薬出版
ボバース法による脳性まひの言語治療(M. C. Crickmay 著)	井上 明生	他訳	医歯薬出版
マニプレーションの実際—徒手治療法の手技解説	天児 民和	監	金原出版
慢性呼吸不全の運動療法(J. A. de Casanova 他著)	伊藤 宏	訳	医歯薬出版
リウマチ疾患—作業療法とリハビリテーション(J. L. Melvin 著)	木村 信子	監訳	協同医書出版社
理学療法概論	奈良 勲	編著	医歯薬出版
リハビリテーション・ケーススタディ—45例のPO研修	岩倉 博光	編	医学書院
リハビリテーション医学	津山 直一	他編	医歯薬出版
リハビリテーション基礎医学	上田 敏	他編	医学書院

<リハビリテーション医学全書(全22巻 別巻1)>

1	リハビリテーション概論	砂原 茂一	編	医歯薬出版
2	人間発達	新井 清三郎	他著	医歯薬出版
3	運動生理学・神経生理学(第2版)	石川 友衛	著	医歯薬出版
4	運動学	明石 康	著	医歯薬出版
5	測定と評価	和才 嘉昭	他著	医歯薬出版
6	器具・自助具・車椅子(第2版)	萩島 秀男	編	医歯薬出版
7	運動療法(第2版)	大井 淑雄	他編	医歯薬出版
8	物理療法(第2版)	福井 団彦	著	医歯薬出版
9	作業療法—総論	田村 春雄	他編	医歯薬出版
10	作業療法—各論	原 武郎	他編	医歯薬出版
11	言語障害	笹沼 澄子	編	医歯薬出版
12	視覚障害(第2版)	原田 政英	編著	医歯薬出版
13	聴覚障害(第2版)	佐藤 修二	編著	医歯薬出版
14	脳卒中・その他の片麻痺	福井 団彦	編著	医歯薬出版
15	脳性麻痺・その他の肢体不自由	小池 文英	編	医歯薬出版
16	脊髄損傷・その他の対麻痺(第2版)	今井 銀四郎	編	医歯薬出版
17	リウマチ・痛み(第2版)	佐々木 晋也	他編	医歯薬出版
18	切断と義肢(第2版)	澤村 誠志	著	医歯薬出版
19	骨折・脱臼・頭頸部外傷・末梢神経損傷(第2版)	田川 宏	他著	医歯薬出版
20	各種神経筋疾患	上田 敏	編	医歯薬出版
21	呼吸障害・循環障害・老人	砂原 茂一	編	医歯薬出版
22	精神障害(第2版)	井上 正吾	他編	医歯薬出版
	別巻 リハビリテーション医学用語辞典—続刊	上田 敏	編	医歯薬出版
<リハビリテーション・クリニックス>				
	物理療法のすべて	Chānmugan	他著	医歯薬出版
	張面解剖と代償運動	竹内 才仁	他著	医歯薬出版
	骨・関節X線像の読み方	大田 仁史	著	医歯薬出版

リハビリテーション基本手技	岩倉 博光	監	医学書院
リハビリテーション処方学(第2版)	荻島 秀男	著	医歯薬出版
リハビリテーション神経学	福井 國彦	編	医歯薬出版
リハビリテーション診療必携	渡辺 英夫	編著	医歯薬出版
リハビリテーション整形外科学(改訂第2版)	大谷 道	著	医学書院
リハビリテーション知識の整理(第3版)	医歯薬出版	編	医歯薬出版
リハビリテーションにおける理学療法	岩倉 博光	著	金原出版
リハビリテーション白書—リハビリテーションの現状と課題(増補改訂版)	日本リハビリテーション医学会		医歯薬出版
リハビリテーション必携(改訂第3版)	大塚 哲也	著	金芳堂
臨床運動学	中村 隆	他著	医歯薬出版
Krusen リハビリテーション体系(普及版)(F. Krusen 他編)	荻島 秀男	訳	医歯薬出版
LICHT 脳卒中とそのリハビリテーション(S. Licht 編)	荻島 秀男	監訳	医歯薬出版
McKenzie 腰痛治療法(R. A. McKenzie 著)	鈴木 信治	監訳	医歯薬出版
PNF 神経筋促進手技(荻島秀男他著)	倉石 健二	訳	医歯薬出版
<カリエの痛みシリーズ>			
肩の痛み(原著第2版)(R. Cailliet 著)	荻島 秀男	訳	医歯薬出版
手の痛みと機能障害(原著第3版)(R. Cailliet 著)	荻島 秀男	訳	医歯薬出版
足と足関節の痛み(原著第2版)(R. Cailliet 著)	荻島 秀男	訳	医歯薬出版
頸と腕の痛み(原著第2版)(R. Cailliet 著)	荻島 秀男	訳	医歯薬出版
腰痛症(原著第3版)(R. Cailliet 著)	荻島 秀男	訳	医歯薬出版
膝の痛みと機能障害(原著第2版)(R. Cailliet 著)	荻島 秀男	訳	医歯薬出版
軟部組織の痛みと機能障害(R. Cailliet 著)	荻島 秀男	訳	医歯薬出版
リハビリテーション医学講座>			
1 リハビリテーション医学概論	岩倉 博光	編	医歯薬出版
2 人間発達学	上田 礼子	著	医歯薬出版
4 神経生理学・臨床神経学	中村 隆一	編	医歯薬出版
9 障害と心理	三澤 義一	著	医歯薬出版
13 神経筋疾患	宇尾野 公義	編著	医歯薬出版

JICA